

#### 2.2.4 水質（水の汚れ）

水質（水の汚れ）については、令和5年5月22日（春季調査）、令和5年8月18日（夏季調査）、令和5年11月15日（秋季調査）、令和6年1月11日（冬季調査）に実施した。調査地点は、図2.1.1(1)に示すとおりとし、表層（海面下0.5m）と下層（海底面上0.5m）の2層で実施した。

##### (1) 調査結果

水質調査結果の概要を表2.2.3に、全調査点平均の季節変化及び水平分布（健康項目を除く）を図2.2.10と図2.2.11に示す。

##### 1) 現場観測項目

###### ① 透明度

透明度は、2.1～8.0m（平均4.2m）の範囲にあり、全調査地点平均値の季節変化をみると夏季と冬季に高く、春季と秋季に低くなる傾向にあった。水平分布によると、空港の北東部から東部沖合にかけて、やや高い傾向がみられた。

###### ② 水温

水温は、表層で9.7～29.1℃（平均19.3℃）、下層で9.7～27.0℃（平均18.3℃）の範囲にあり、全調査地点の層別平均値は、表層、下層ともに、夏季に高く、冬季に低い傾向にあった。水平分布をみると、春季及び夏季は、表層、下層ともに空港島西側で高く、東側で低い傾向にあった。秋季及び冬季は、空港島東側で表層、下層ともにやや高い傾向にあった。鉛直的には、春季及び夏季では下層より表層で高い傾向にあった。秋季及び冬季は鉛直的にほぼ一様であった。

##### 2) 生活環境項目

###### ① 水素イオン濃度(pH)

水素イオン濃度は、表層では8.0～8.2（平均8.1）、下層では8.0～8.1（平均8.1）の範囲にあり、層別による顕著な違いはみられなかった。水平分布によると、四季を通して調査地点間に大きな差はみられず、概ね一様であった。

###### ② 化学的酸素要求量(酸性法：COD<sub>Mn</sub>)

化学的酸素要求量(COD<sub>Mn</sub>)は、表層、下層とも1.6～1.9mg/L（平均1.8mg/L）の範囲にあり、全調査地点の層別平均値は表層、下層とも季節別による顕著な違いはみられなかった。水平分布によると、四季を通して調査地点間に大きな差はみられず、概ね一様であった。

③ 化学的酸素要求量(アルカリ法：COD<sub>OH</sub>)

化学的酸素要求量(COD<sub>OH</sub>)は、表層では0.6～1.2mg/L(平均0.9mg/L)、下層では0.6～1.3mg/L(平均0.9mg/L)の範囲にあり、全地点の層別平均値は、表層、下層ともに夏季にやや高い傾向がみられた。水平分布によると、四季を通して調査地点間に大きな差はなく、概ね一様であった。

④ 溶存酸素量(DO、DO飽和度)

溶存酸素量は、表層では7.8～10.1g/L(平均8.7mg/L)、下層では5.1～10.2mg/L(平均8.0mg/L)の範囲にあり、表層では冬季に高く、下層では、冬季に高く夏季に低くなる傾向がみられた。

溶存酸素飽和度は、表層では98～136%(平均110%)、下層では75～110%(平均97%)の範囲にあり、全地点の層別平均値は、表層では春季及び夏季にやや高く、下層では夏季にやや低かった。水平分布によると、調査地点間の大きな差はみられず、概ね一様であった。

⑤ 大腸菌群数

大腸菌群数は、表層では1.8MPN/100mL未満(定量下限値未満)～110MPN/100mL(平均6.7MPN/100mL)、下層では1.8MPN/100mL未満(定量下限値未満)～6.8MPN/100mL(平均2.9MPN/100mL)の範囲にあり、表層では夏季に、下層では秋季にやや高かった。

⑥ 大腸菌数

大腸菌数は、表層では0CFU/100mL～1CFU/100mL(平均0CFU/100mL)、下層では0CFU/100mL～4CFU/100mL(平均0CFU/100mL)の範囲にあり、秋季のNo.2の下層を除き、低い値であった。水平分布によると、調査地点間の大きな差はみられず、概ね一様であった。

⑦ ノルマルヘキサン抽出物質(油分等)

ノルマルヘキサン抽出物質は、全調査地点で0.5mg/L未満(定量下限値未満)であった。

⑧ 全窒素(T-N)

全窒素は、表層では0.10～0.35mg/L(平均0.15mg/L)、下層では0.11～0.32mg/L(平均0.16mg/L)の範囲にあり、季節別では表層、下層ともに夏季に高かった。表層-下層間の差はいずれの季節もほとんどみられなかった。水平分布によると、夏季は空港島北東側のNo.3の下層とNo.7の表層でやや高かった。

⑨ 全磷(T-P)

全磷は、表層では0.015～0.047mg/L(平均0.022mg/L)、下層では0.015～0.047mg/L(平均0.026mg/L)の範囲にあり、全地点の層別平均は、表層、下層ともに夏季に高くなる傾向がみられた。また、春季、夏季は、秋季、冬季と比べ、表層-下層間での差が大きかった。水平分布によると、春季の空港島北西側のNo.2の下層、夏季は空港島周辺全域、秋季は空港島北東側のNo.3の下層、冬季は空港島北西側のNo.2の表層でやや高い値がみられた。

⑩ 全亜鉛 (Zn)

全亜鉛は、表層、下層とも 0.005mg/L 未満 (定量下限値未満) ~0.006mg/L (平均 0.006mg/L) の範囲にあり、全地点の層別平均は、表層、下層とも四季を通じて同程度の値であった。水平分布によると、調査地点間の大きな差はみられず、概ね一様であった。

⑪ ノニルフェノール

ノニルフェノールは、表層、下層とも全地点で 0.00006mg/L 未満 (定量下限値未満) であった。水平分布によると調査地点間の大きな差はみられず、一様であった。

⑫ 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸 (LAS)

直鎖アルキルベンゼンスルホン酸は、表層、下層とも 0.0006mg/L 未満 (定量下限値未満) であった。水平分布によると、調査地点間の大きな差はみられず、概ね一様であった。

3) 健康項目

健康項目のうち海域で基準が定められている項目は、セレン、砒素、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素を除き全て定量下限値未満であった。セレンについては、秋季に最大で 0.001mg/L、砒素については、夏季、秋季及び冬季に最大で 0.003mg/L、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素については冬季に最大 0.01mg/L が確認されたが、いずれも定量下限値 (セレンと砒素は 0.001mg/L、硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素は 0.01mg/L) 付近の低濃度であった。

4) その他の項目

① 塩分

塩分は、表層で 29.3~33.5 (平均 31.8)、下層は 30.6~33.5 (平均 32.3) の範囲であり、全地点の層別平均値は、表層、下層ともに秋季及び冬季に高かった。水平分布によると、四季を通して調査地点間に大きな差はみられず、概ね一様であった。

② クロロフィル a

クロロフィル a は、表層では 1.0~33.3  $\mu$ g/L (平均 4.0  $\mu$ g/L)、下層では 1.4~12.1  $\mu$ g/L (平均 3.9  $\mu$ g/L) であった。季節別の層別平均値は、表層、下層ともに冬季及び春季に低くなり、夏季に高くなる傾向がみられた。水平分布によると、夏季は空港島の北東側の No. 3、No. 7 及び No. 9 の表層でやや高くなる傾向がみられた。

表 2.2.3(1) 水質調査結果の概要

項目	春季 (令和5年5月22日)			夏季 (令和5年8月18日)			秋季 (令和5年11月15日)			冬季 (令和6年1月11日)			4季 (令和5年度)			環境 基準値	水産用水 基準値
	単位	層	平均値 最小値 ~ 最大値														
透明度	m	—	3.2 ~ 4.4	5.2 ~ 8.0	2.9 ~ 3.8	2.1 ~ 3.8	2.9 ~ 3.8	2.1 ~ 3.8	2.9 ~ 3.8	4.5 ~ 6.5	4.2 ~ 6.5	2.1 ~ 4.2	2.1 ~ 4.2	—	—		
水温	℃	表(-0.5m) 底(B+0.5)	20.4 ~ 21.1 19.3 ~ 19.9	28.7 ~ 29.1 25.9 ~ 27.0	19.7 ~ 21.1 17.9 ~ 18.2	17.3 ~ 18.2 17.9 ~ 18.2	19.7 ~ 21.1 17.9 ~ 18.2	17.3 ~ 18.2 17.9 ~ 18.2	19.7 ~ 21.1 17.9 ~ 18.2	9.7 ~ 10.7 9.7 ~ 10.6	10.2 ~ 10.7 10.2 ~ 10.6	9.7 ~ 10.7 9.7 ~ 10.6	19.3 ~ 19.3 18.3 ~ 18.3	9.7 ~ 29.1 33.5 ~ 33.5	—	—	
塩分	—	表(-0.5m) 底(B+0.5)	31.6 ~ 31.8 31.8 ~ 32.1	30.0 ~ 31.5 31.5 ~ 31.5	32.7 ~ 32.8 32.8 ~ 32.8	32.6 ~ 32.7 32.7 ~ 32.7	32.7 ~ 32.8 32.8 ~ 32.8	32.6 ~ 32.7 32.7 ~ 32.7	33.1 ~ 33.3 33.3 ~ 33.4	33.1 ~ 33.5 33.2 ~ 33.5	33.3 ~ 33.3 33.4 ~ 33.4	33.1 ~ 33.5 33.2 ~ 33.2	30.6 ~ 32.3 32.3 ~ 32.3	30.6 ~ 33.5 8.2 ~ 8.2	—	—	
水素イオン濃度 (pH)	—	表(-0.5m) 底(B+0.5)	8.0 ~ 8.1 8.1 ~ 8.1	7.8以上 8.3以下	7.8以上 8.4以下												
化学的酸素要求量 (CODMn)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	1.8 ~ 1.8 1.8 ~ 1.8	1.7 ~ 1.9 1.7 ~ 1.9	1.7 ~ 1.8 1.7 ~ 1.8	1.6 ~ 1.8 1.6 ~ 1.8	1.7 ~ 1.8 1.7 ~ 1.8	1.6 ~ 1.8 1.6 ~ 1.8	1.7 ~ 1.8 1.7 ~ 1.8	1.6 ~ 1.8 1.6 ~ 1.8	1.6 ~ 1.9 1.9 ~ 1.9	2mg/L 以下	—				
化学的酸素要求量 (CODCr)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	1.0 ~ 1.1 1.0 ~ 1.1	0.8 ~ 1.1 0.8 ~ 1.1	0.6 ~ 0.7 0.6 ~ 0.7	0.6 ~ 0.7 0.6 ~ 0.7	0.6 ~ 0.7 0.6 ~ 0.7	0.6 ~ 1.2 0.6 ~ 1.2	0.6 ~ 1.2 0.6 ~ 1.2	—	—						
溶存酸素量 (DO)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	8.7 ~ 8.1 8.4 ~ 8.4	7.5mg/L 以上	7.5mg/L 以上												
溶存酸素量 (DO飽和度)	%	表(-0.5m) 底(B+0.5)	101 ~ 105 101 ~ 105	103 ~ 103 103 ~ 103	—	—											
大腸菌群数	MPN/ 100mL	表(-0.5m) 底(B+0.5)	<1.8 1.8 ~ 1.8	1,000MPN/ 100mL以下	1,000MPN/ 100mL以下												
大腸菌数	CFU/ 100mL	表(-0.5m) 底(B+0.5)	0 ~ 1 0 ~ 1	300CFU/10 0mL以下	300CFU/10 0mL以下												
n-ヘキサン抽出物質 (油分)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	<0.5 —	検出されな いこと	検出されな いこと												
全窒素 (T-N)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	0.13 ~ 0.17 0.13 ~ 0.15	0.20 ~ 0.35 0.21 ~ 0.32	0.13 ~ 0.13 0.15 ~ 0.15	0.11 ~ 0.23 0.11 ~ 0.23	0.13 ~ 0.13 0.15 ~ 0.15	0.11 ~ 0.23 0.11 ~ 0.23	0.13 ~ 0.13 0.15 ~ 0.15	0.11 ~ 0.23 0.11 ~ 0.23	0.16 ~ 0.23 0.16 ~ 0.23	0.15 ~ 0.23 0.16 ~ 0.23	0.15 ~ 0.35 0.16 ~ 0.32	0.10 ~ 0.35 0.11 ~ 0.32	0.3mg/L 以下	0.3mg/L 以下	
全磷 (T-P)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	0.015 ~ 0.019 0.015 ~ 0.033	0.028 ~ 0.047 0.025 ~ 0.047	0.03mg/L 以下	0.03mg/L 以下											
全亜鉛 (Zn)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	<0.005 —	0.01mg/L 以下	0.01mg/L 以下												
ノニフェノール (NPF)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	<0.0006 —	0.0007mg/L 以下	0.0007mg/L 以下												
直鎖アルキルベンゼン スルホン酸(LAS)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	<0.0006 —	0.006mg/L 以下	0.006mg/L 以下												
クロロアノラ	μg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	2.0 ~ 3.7 3.1 ~ 5.0	7.4 ~ 33.3 6.0 ~ 12.1	4.6 ~ 4.4 4.4 ~ 4.4	2.6 ~ 5.6 3.4 ~ 5.5	4.6 ~ 4.4 4.4 ~ 4.4	2.6 ~ 5.6 3.4 ~ 5.5	1.9 ~ 1.9 1.9 ~ 1.9	3.1 ~ 2.5 2.5 ~ 2.5	1.9 ~ 3.9 1.4 ~ 1.4	1.2 ~ 4.0 1.4 ~ 1.4	1.0 ~ 3.3 1.4 ~ 12.1	1.0 ~ 3.3 1.4 ~ 12.1	—	—	
カドミウム (Cd)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	<0.0003 —	0.003mg/L 以下	0.003mg/L 以下												
全アン モン (CN)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	<0.1 —	検出されな いこと	検出されな いこと												
鉛 (Pb)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	<0.001 —	0.01mg/L 以下	0.01mg/L 以下												
六価クロム (Cr6+)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	<0.002 —	0.02mg/L 以下	0.02mg/L 以下												
砒素 (As)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	0.002 ~ 0.002 —	0.003 ~ 0.003 —	0.003 ~ 0.003 —	0.002 ~ 0.003 —	0.003 ~ 0.003 —	0.002 ~ 0.003 —	0.01mg/L 以下	0.01mg/L 以下							
総水銀 (T-Hg)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	<0.0005 —	0.0005 mg/L以下	0.0005 mg/L以下												
アルキル水銀 (R-Hg)	mg/L	表(-0.5m) 底(B+0.5)	<0.0005 —	検出されな いこと	検出されな いこと												

※1 表層：海面下0.5m、下層海底面上0.5m

※2 表中の平均値の扱いについて、測定値が定量下限値未満の場合は、定量下限値として統計処理した。

※3 水産用水基準(2018年版)では、COD<sub>Cr</sub>の基準値は一時保留とされているが、過年度と同じく1mg/Lを基準値とした。

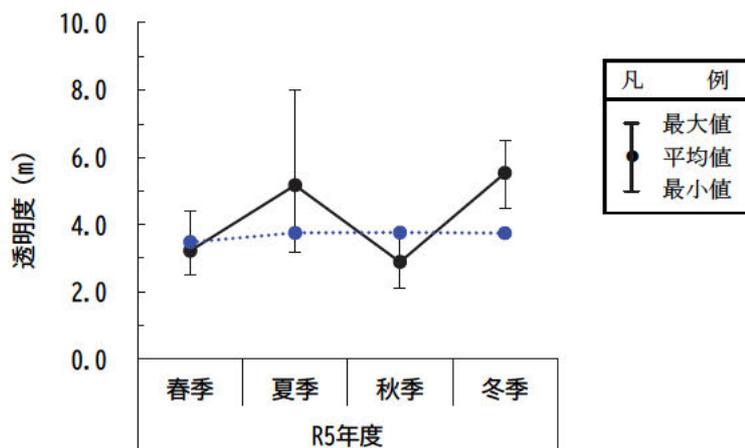
※4 全窒素0.30mg/L以下、全リン0.03mg/L以下(水産1種)、全窒素0.30mg/Lを超え0.60mg/Lを超え0.60mg/L以下(水産3種)、全窒素0.60mg/Lを超え1.00mg/L以下、全リン0.05mg/Lを超え0.09mg/L以下(水産2種)、全窒素0.60mg/Lを超え0.09mg/Lを超え0.09mg/L以下(水産3種)

表 2.2.3(2) 水質調査結果の概要

項目	単位	層	春季 (令和5年5月22日)			夏季 (令和5年8月18日)			秋季 (令和5年11月15日)			冬季 (令和6年1月11日)			4季 (令和5年度)			環境 基準値	水産用水 基準値
			平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値	平均値	最小値	最大値		
ポリ塩化ビフェニール (PCB)	mg/L	表(-0.5m)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	検出されな いこと	-	
		底(B+0.5)	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005	0.02mg/L 以下	-
ジクロロメタン	mg/L	表(-0.5m)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.002mg/L 以下	-
		底(B+0.5)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.002mg/L 以下	-
四氯化炭素	mg/L	表(-0.5m)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.004mg/L 以下	-
		底(B+0.5)	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004	0.01mg/L 以下	-
トリクロロエチレン	mg/L	表(-0.5m)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下	-
		底(B+0.5)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下	-
テトラクロロエチレン	mg/L	表(-0.5m)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.1mg/L 以下	-
		底(B+0.5)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.04mg/L 以下	-
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	表(-0.5m)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	1mg/L 以下	-
		底(B+0.5)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	0.006mg/L 以下	-
1,1 2-トリクロロエタン	mg/L	表(-0.5m)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.002mg/L 以下	-
		底(B+0.5)	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	<0.0002	0.006mg/L 以下	-
1,3-ジクロロプロパン	mg/L	表(-0.5m)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.006mg/L 以下	-
		底(B+0.5)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.003mg/L 以下	-
シマジン (CAT)	mg/L	表(-0.5m)	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002	0.02mg/L 以下	-
		底(B+0.5)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下	-
チオベンカルブ	mg/L	表(-0.5m)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.02mg/L 以下	-
		底(B+0.5)	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	<0.0006	0.01mg/L 以下	-
ベンゼン	mg/L	表(-0.5m)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下	-
		底(B+0.5)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下	-
セレン	mg/L	表(-0.5m)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下	-
		底(B+0.5)	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	<0.001	0.01mg/L 以下	-
硝酸性窒素	mg/L	表(-0.5m)	<0.005	<0.005	<0.009	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.014	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.014	<0.005	-	-
		底(B+0.5)	<0.005	<0.005	<0.006	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-
亜硝酸性窒素	mg/L	表(-0.5m)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-
		底(B+0.5)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	-	-
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	表(-0.5m)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	10mg/L 以下	-
		底(B+0.5)	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01	海域での基 準値なし	-
フッ素	mg/L	表(-0.5m)	1.2	1.2	1.1	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.2	海域での基 準値なし	-
		底(B+0.5)	1.2	1.2	1.1	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.1	1.1	1.2	海域での基 準値なし
珪酸	mg/L	表(-0.5m)	4.1	4.0	3.8	3.6	3.9	4.1	4.0	4.0	4.5	4.0	4.0	4.5	3.6	3.7	4.8	海域での基 準値なし	-
		底(B+0.5)	4.0	3.9	4.2	4.0	4.2	4.2	4.0	4.4	4.5	4.3	4.6	4.1	4.2	4.6	4.6	海域での基 準値なし	-
1,4-ジオキサン	mg/L	表(-0.5m)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下	-
		底(B+0.5)	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	<0.005	0.05mg/L 以下	-

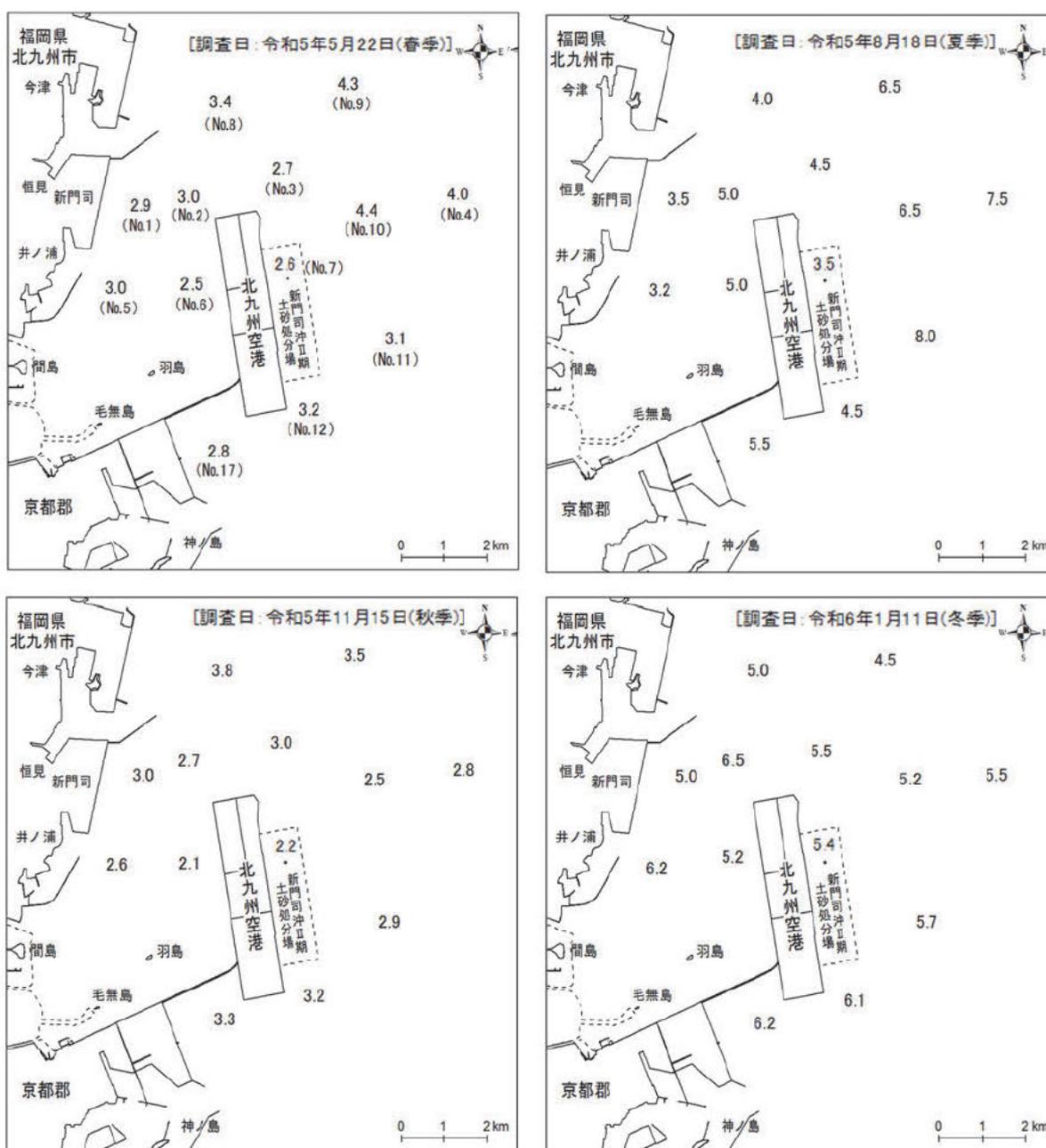
※1 表層：海面下 0.5m、下層：海底面上 0.5m

※2 表中の平均値の扱いについて、測定値が定量下限値未満の場合は、定量下限値として統計処理した。



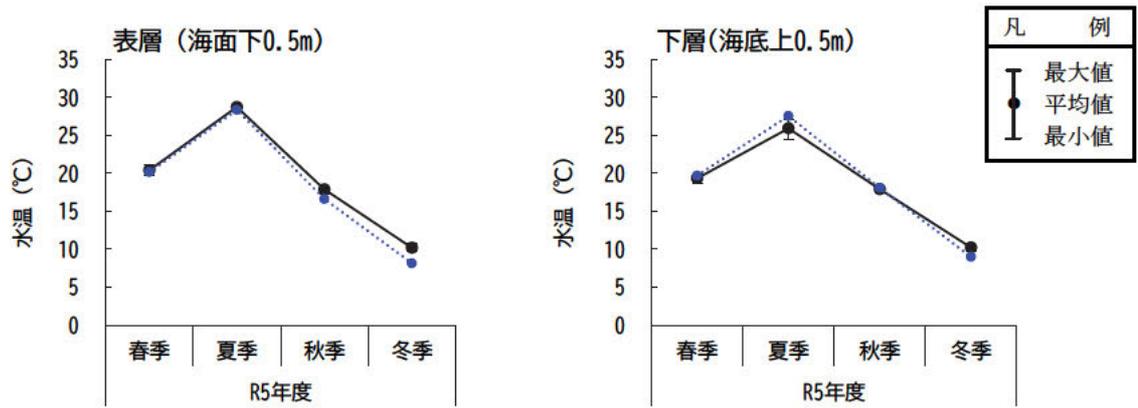
注) 図中の ● は、過年度の全調査地点平均の季節変化を示す。

図 2.2.10(1) 全調査地点平均の季節変化 (透明度)



単位:m

図 2.2.11(1) 水平分布 (透明度)



注) 図中の ●●●● は、過年度の全調査点平均の季節変化を示す。

図 2.2.10(2) 全調査地点平均の季節変化 (水温)

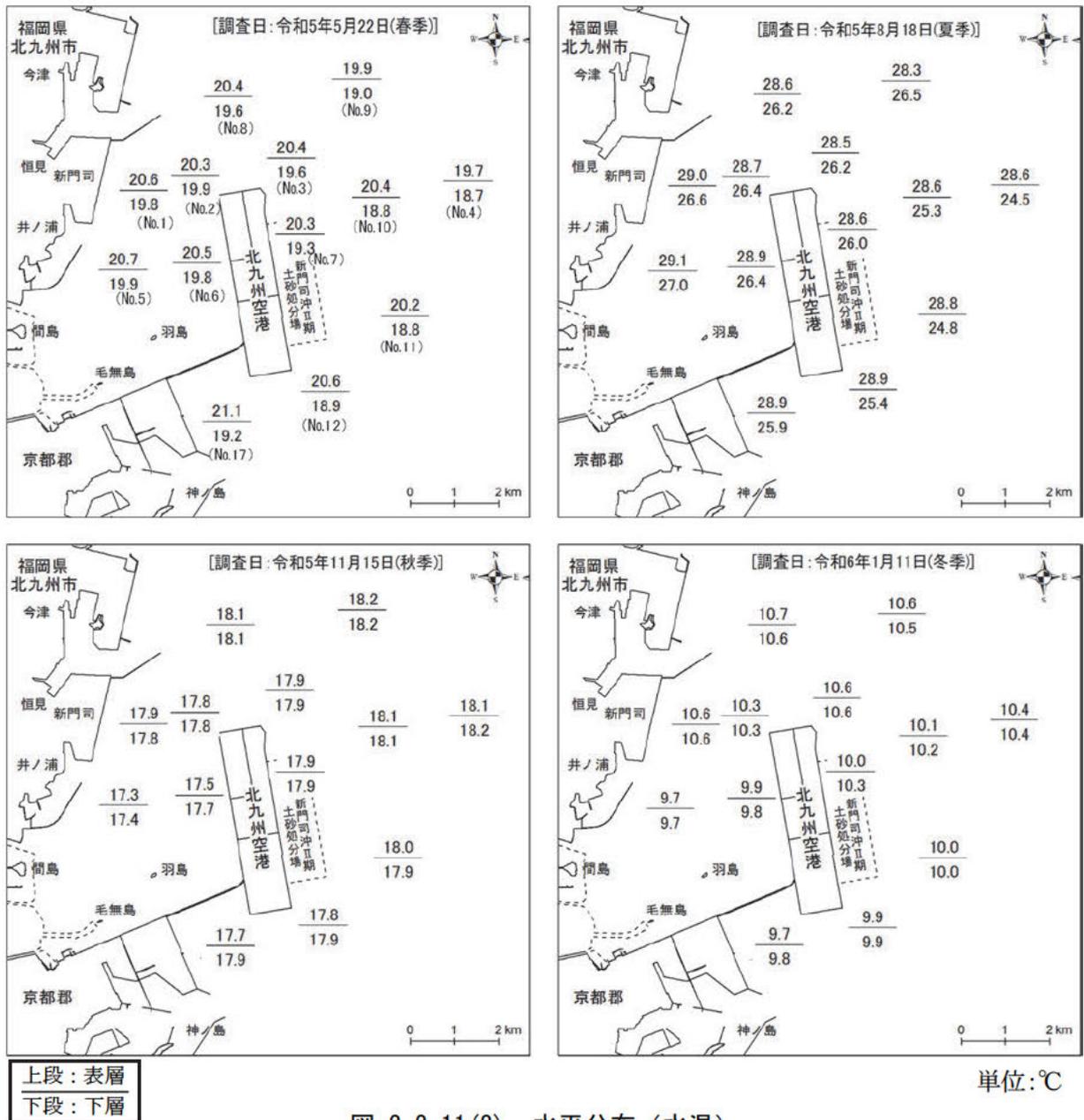
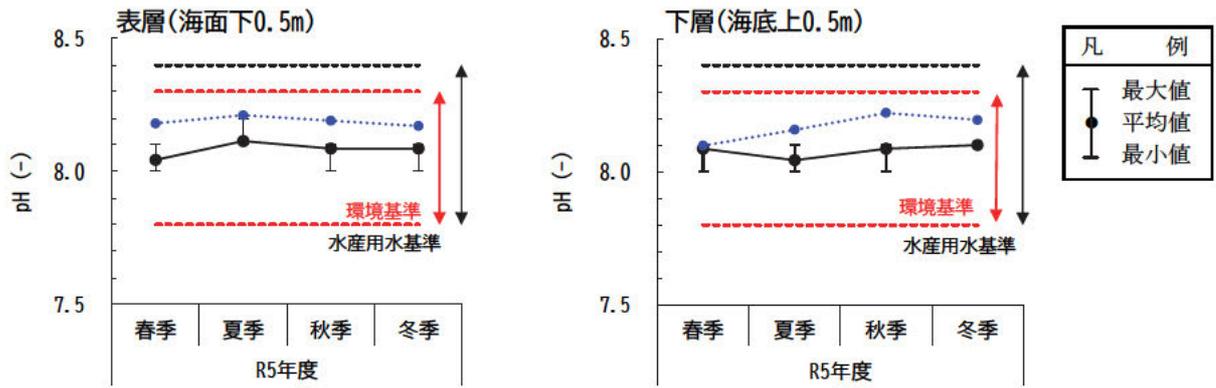


図 2.2.11(2) 水平分布 (水温)



注) 図中の ●●●● は、過年度の全調査地点平均の季節変化を示す。

図 2.2.10(3) 全調査地点平均の季節変化(水素イオン濃度(pH))

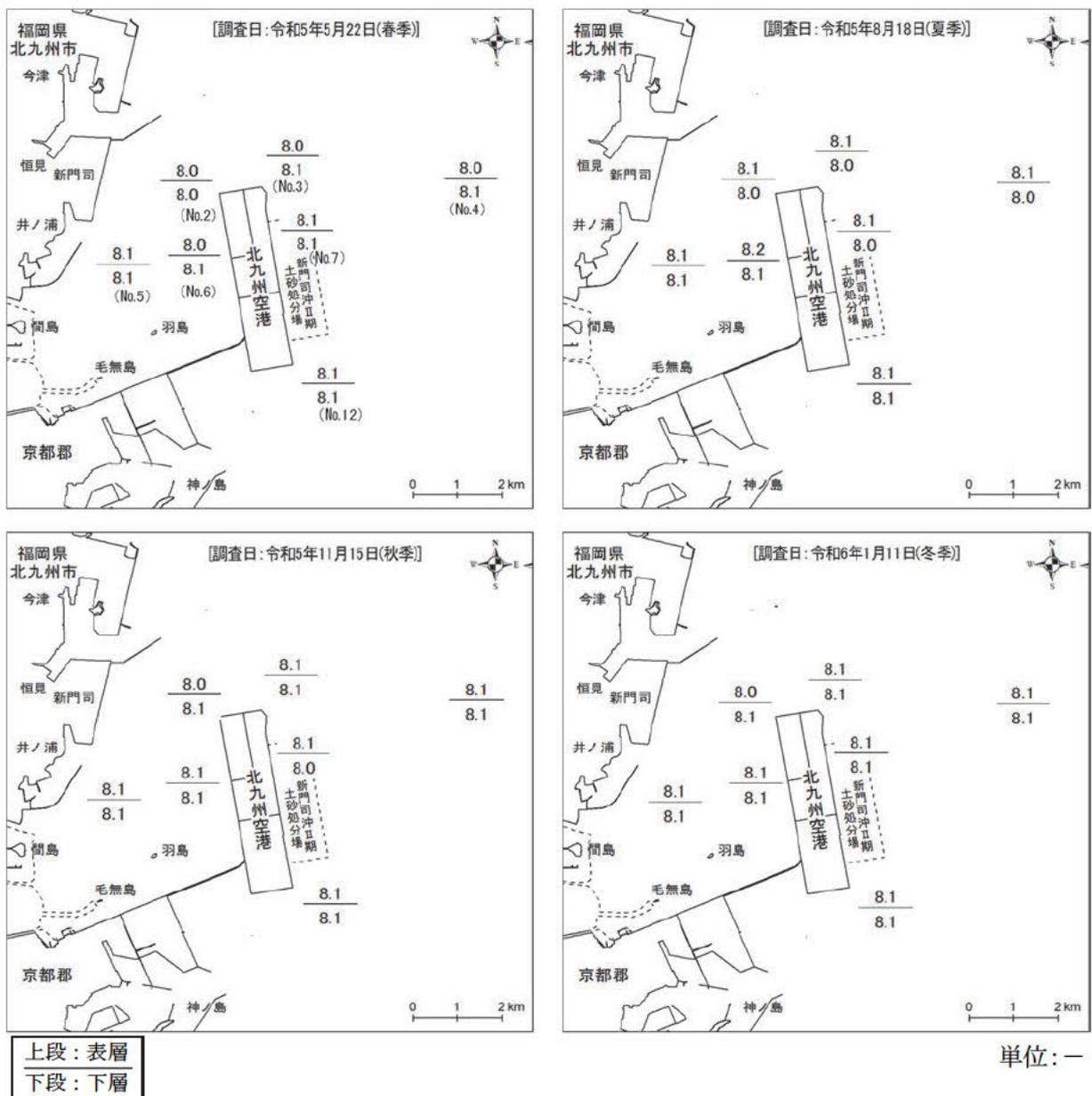
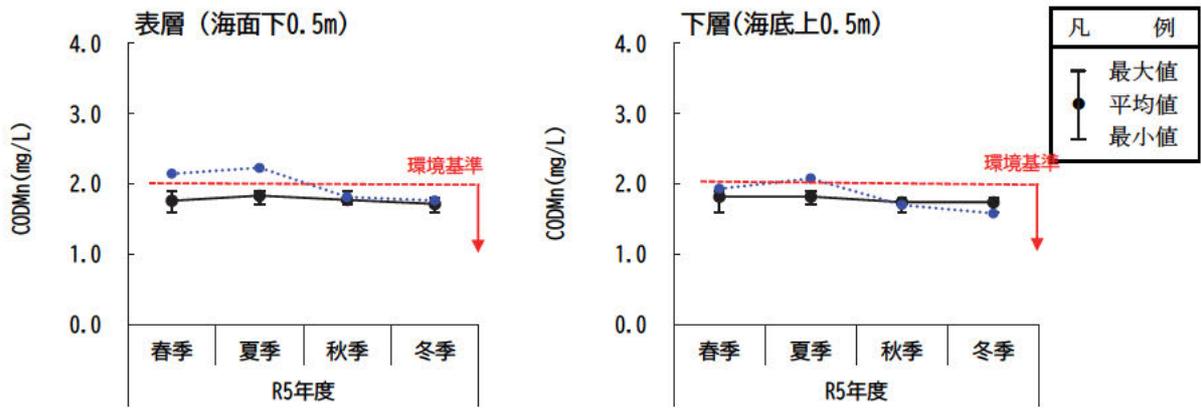


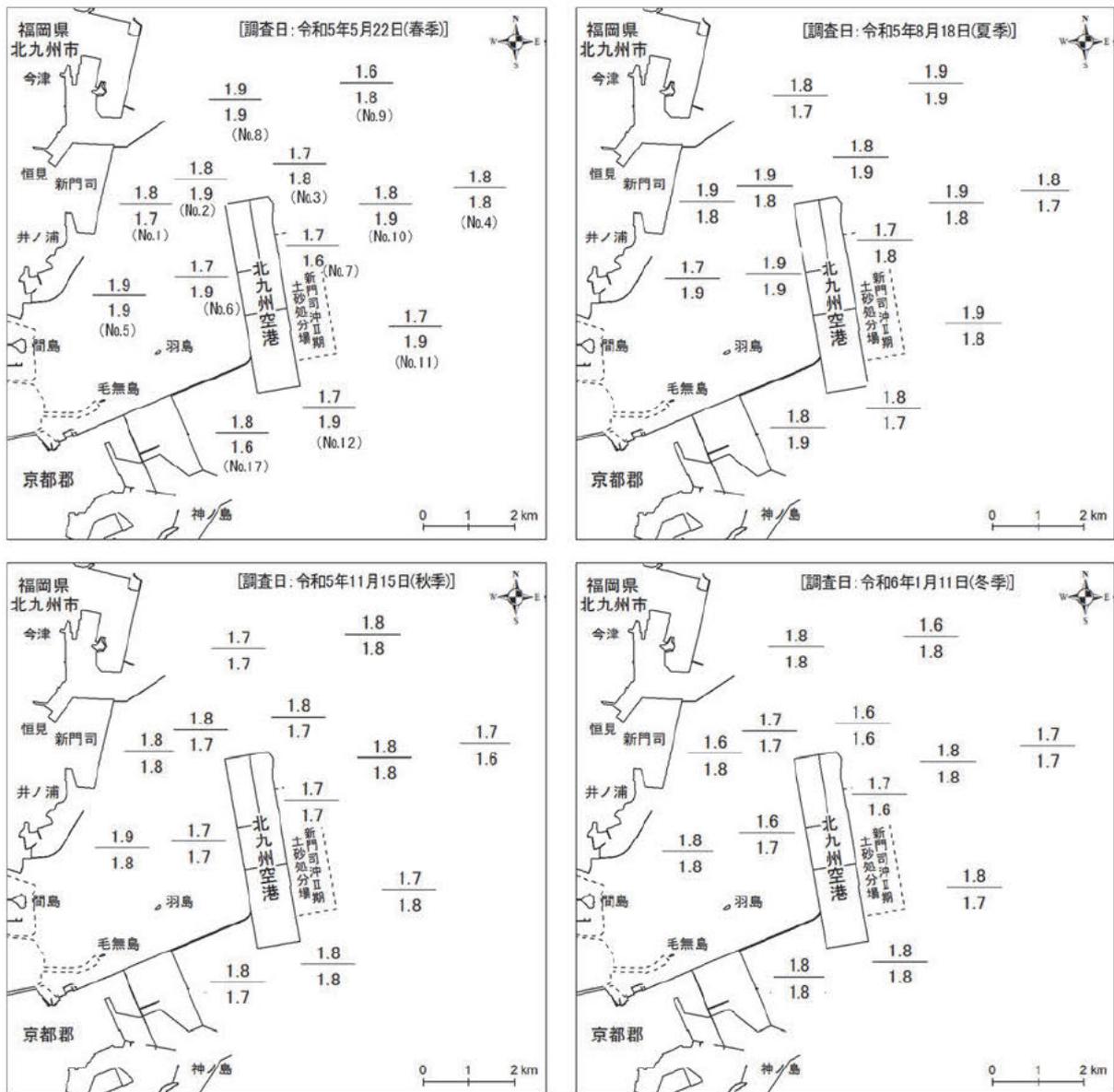
図 2.2.11(3) 水平分布(水素イオン濃度(pH))



注) CODの環境基準達成状況の年間評価については75値により行うが、ここでは、季節変動を監視する目的で全調査地点の統計値(最大、最小、平均)を図化した。

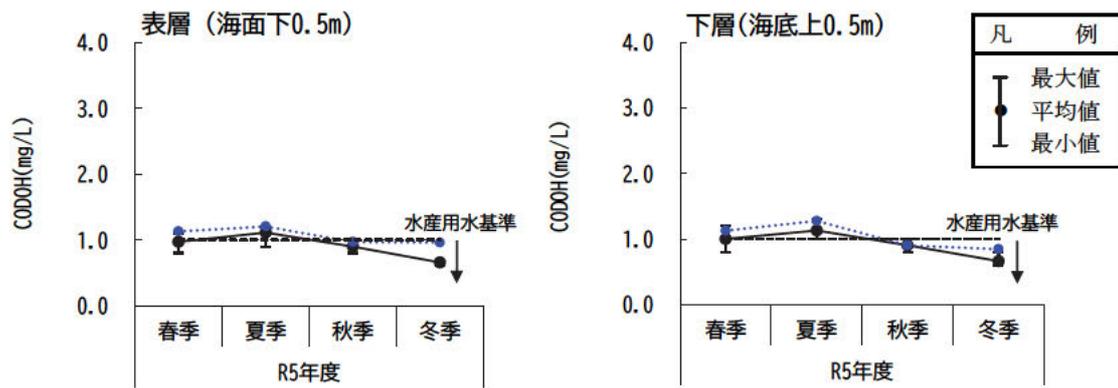
注) 図中の...●...は、過年度の全調査点平均の季節変化を示す。

図 2.2.10(4) 全調査地点平均の季節変化 (COD<sub>Mn</sub>)



単位: mg/L

図 2.2.11(4) 水平分布 (化学的酸素要求量 (COD<sub>Mn</sub>))



注) 図中の ---●--- は、過年度の全調査点平均の季節変化を示す。

図 2.2.10(5) 全調査地点平均の季節変化 (COD<sub>OH</sub>)

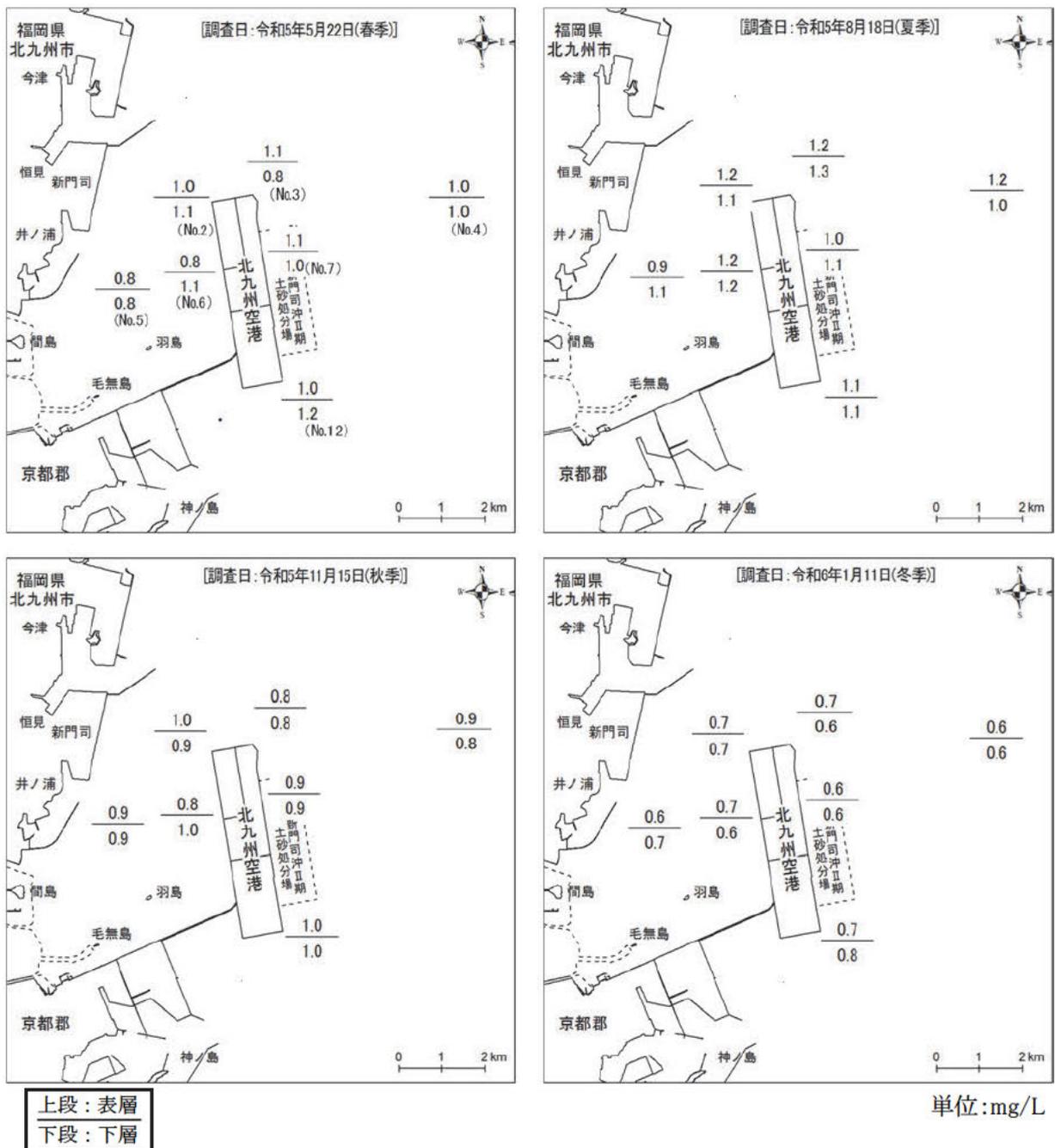


図 2.2.11(5) 水平分布 (化学的酸素要求量 (COD<sub>OH</sub>))

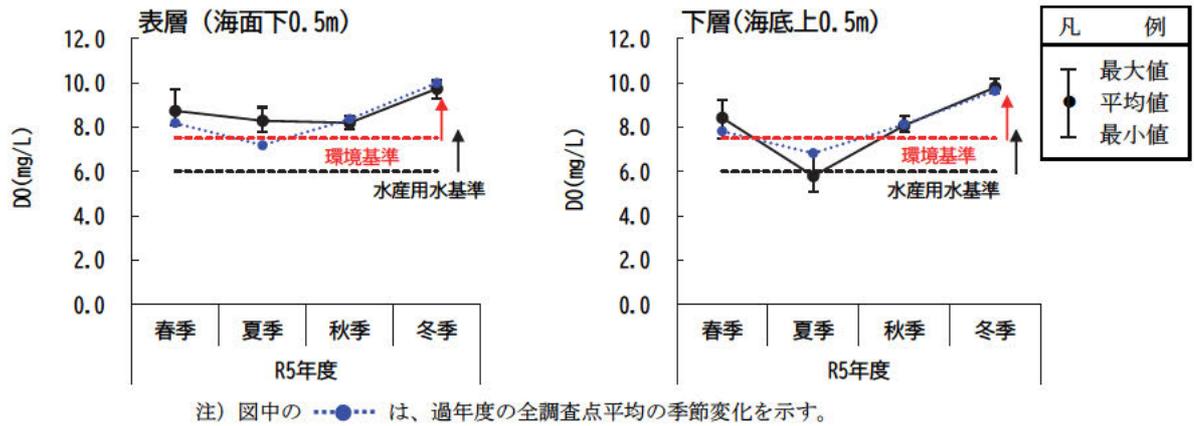


図 2.2.10(6) 全調査地点平均の季節変化(溶存酸素量(DO))

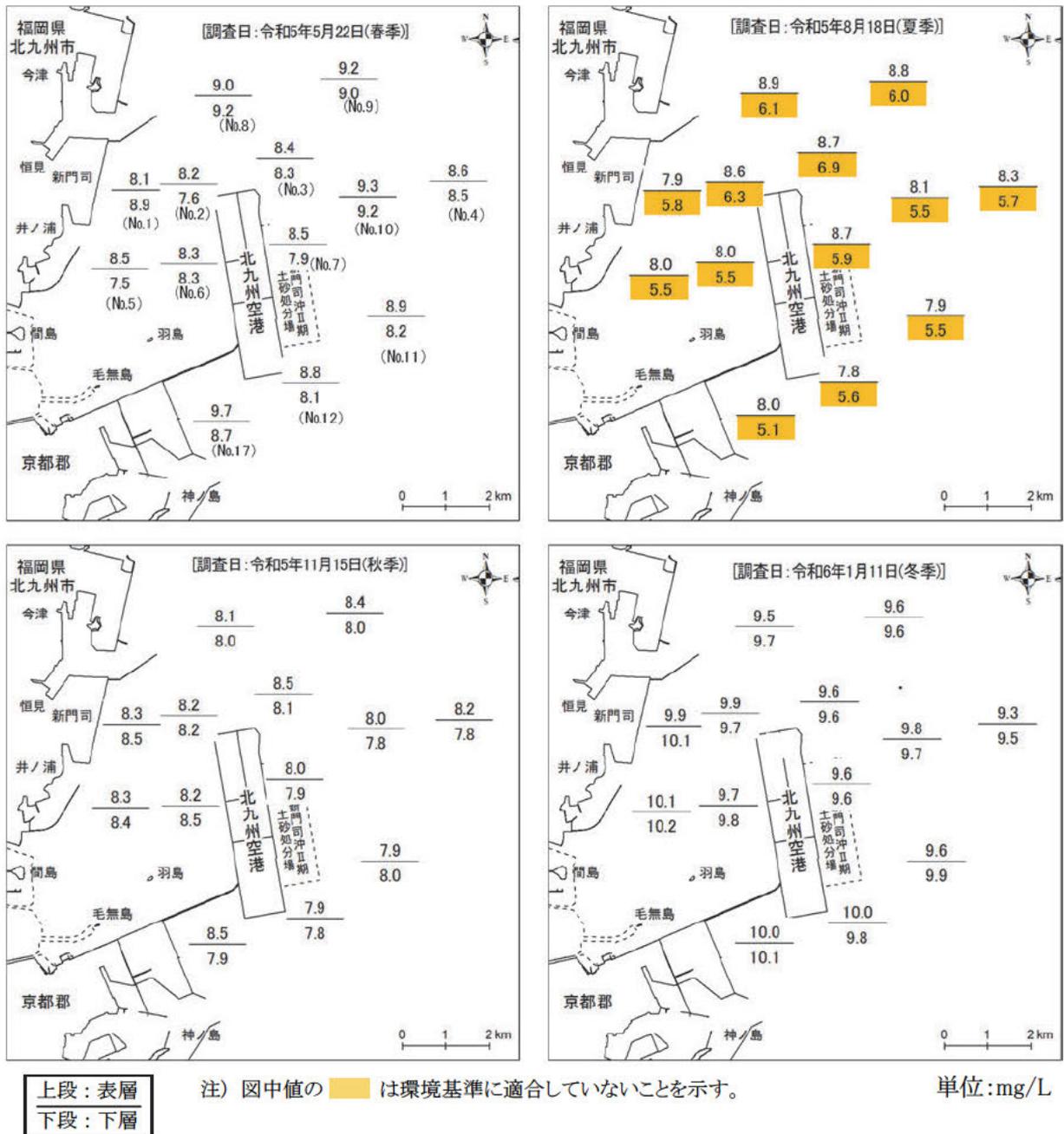
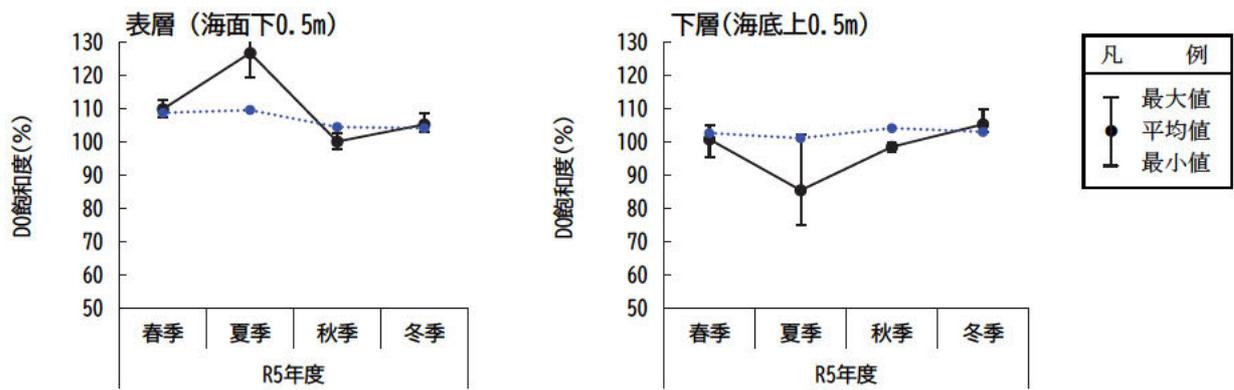


図 2.2.11(6) 水平分布(溶存酸素量(DO))



注) 図中の ●---● は、過年度の全調査地点平均の季節変化を示す。

図 2.2.10(7) 全調査地点平均の季節変化 (溶存酸素飽和度)

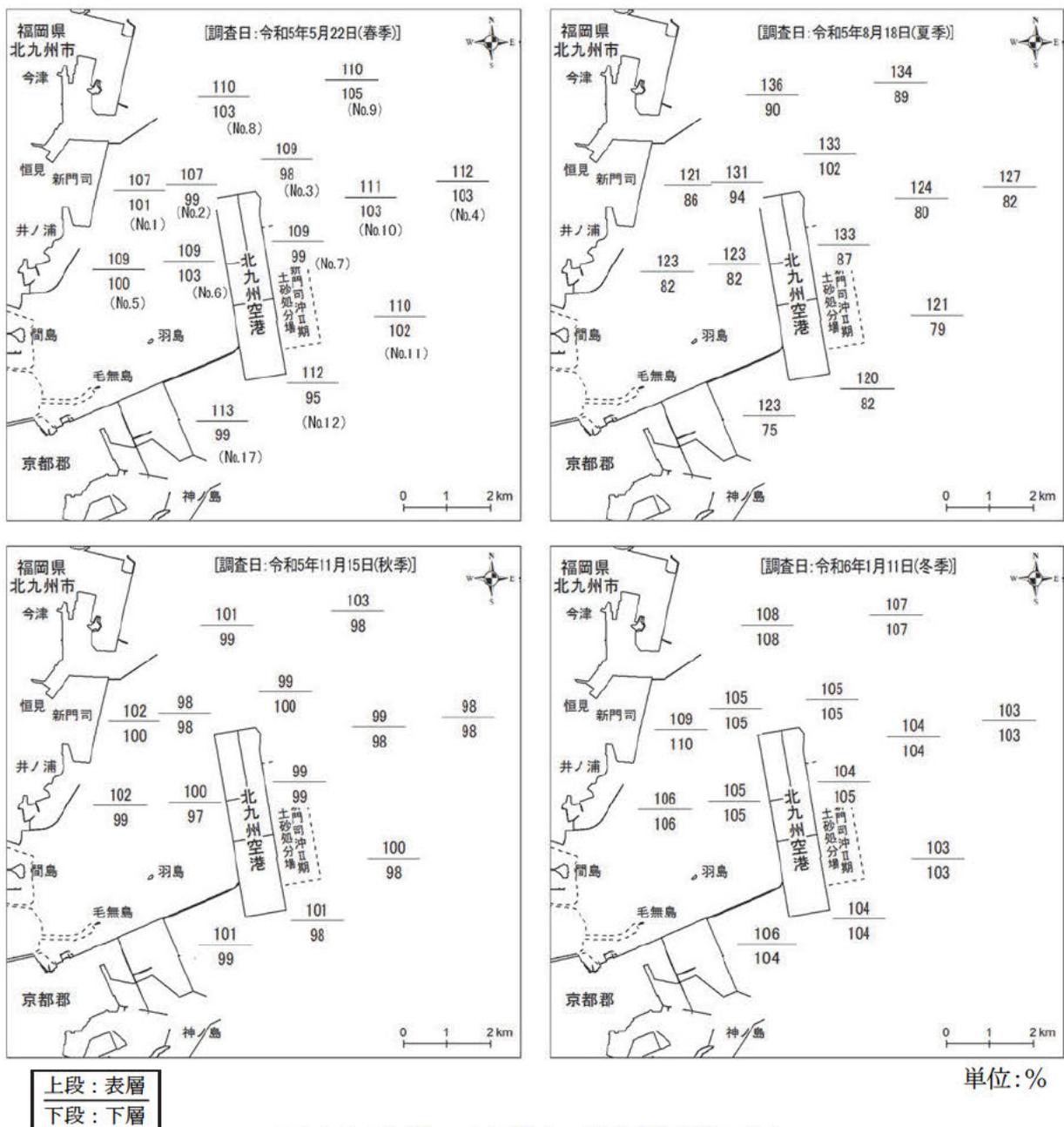
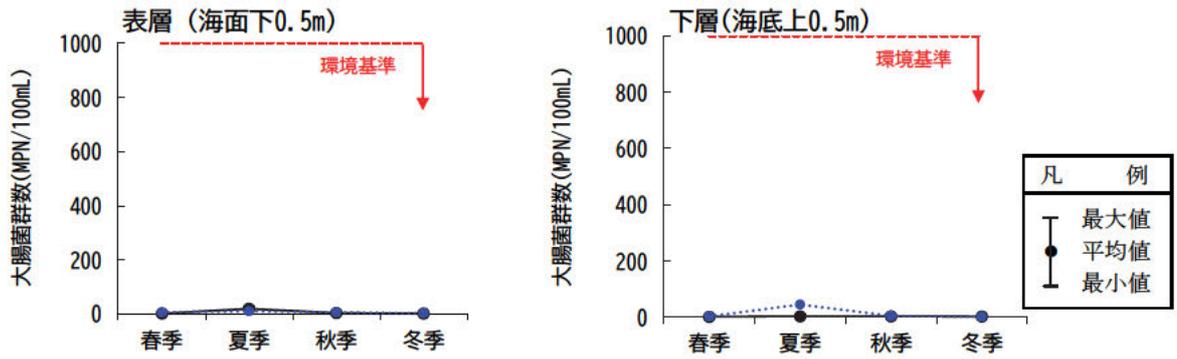


図 2.2.11(7) 水平分布 (溶存酸素飽和度)



注) 図中の ●-●-●- は、過年度の全調査地点平均の季節変化を示す。

図 2.2.10(8) 全調査地点平均の季節変化 (大腸菌群数)

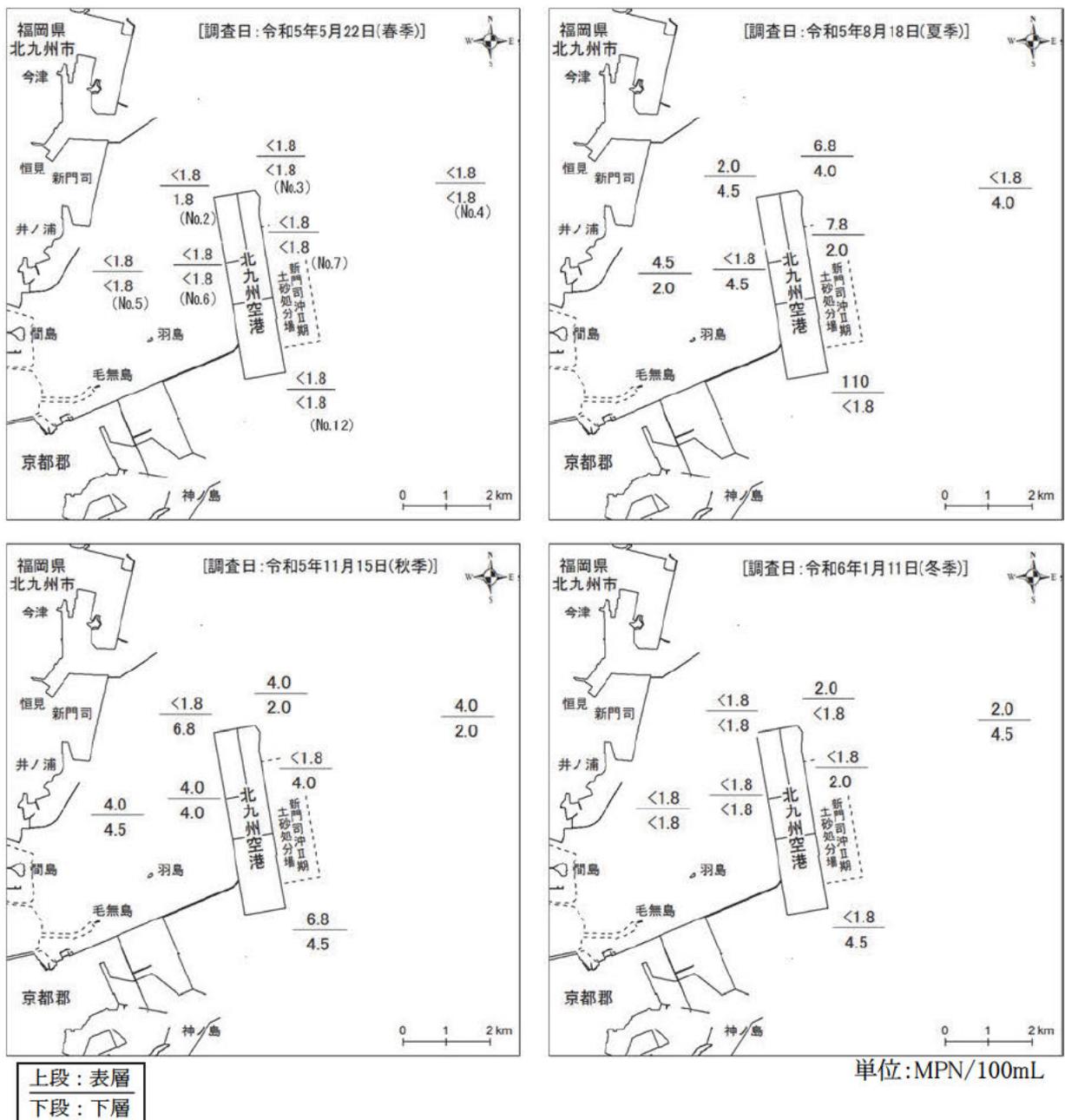


図 2.2.11(8) 水平分布 (大腸菌群数)





注) 図中の ●●●● は、過年度の全調査地点平均の季節変化を示す。

図 2.2.10(10) 全調査地点平均の季節変化（ノルマルヘキサン抽出物質）

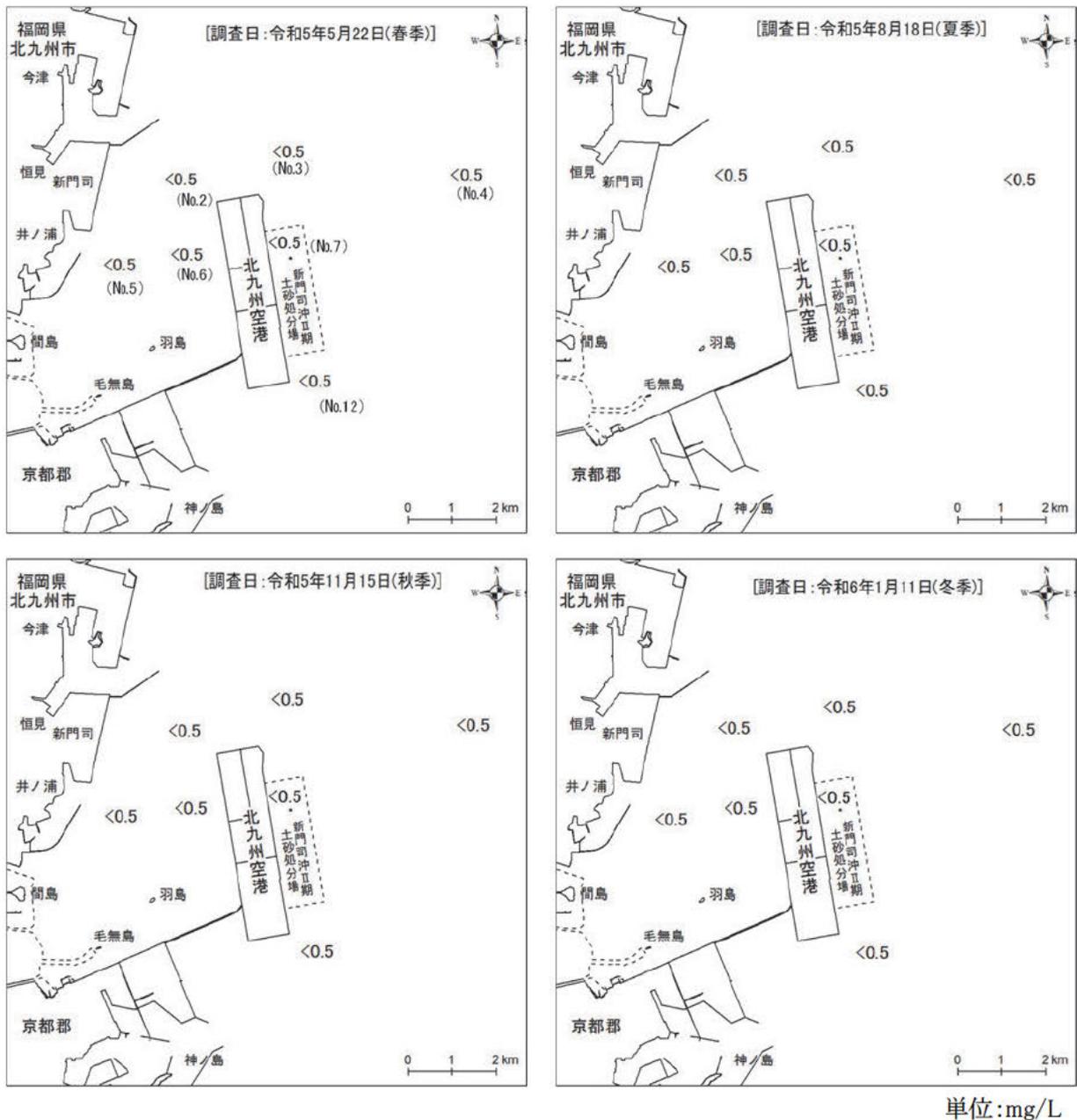
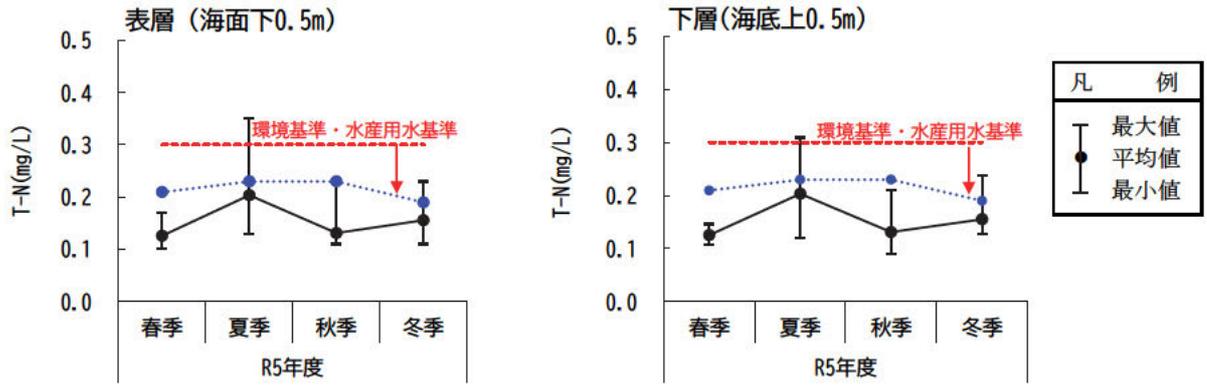


図 2.2.11(10) 水平分布（ノルマルヘキサン抽出物質）



注) T-Nの環境基準の達成状況の評価は、表層の年間平均値により行うが、ここでは、季節変動を監視する目的で、層別に全調査地点の統計値(最大、最小、平均)を図化した。  
 注) 図中の●●●は、過年度の全調査点平均の季節変化を示す。

図 2.2.10(11) 全調査地点平均の季節変化(全窒素(T-N))

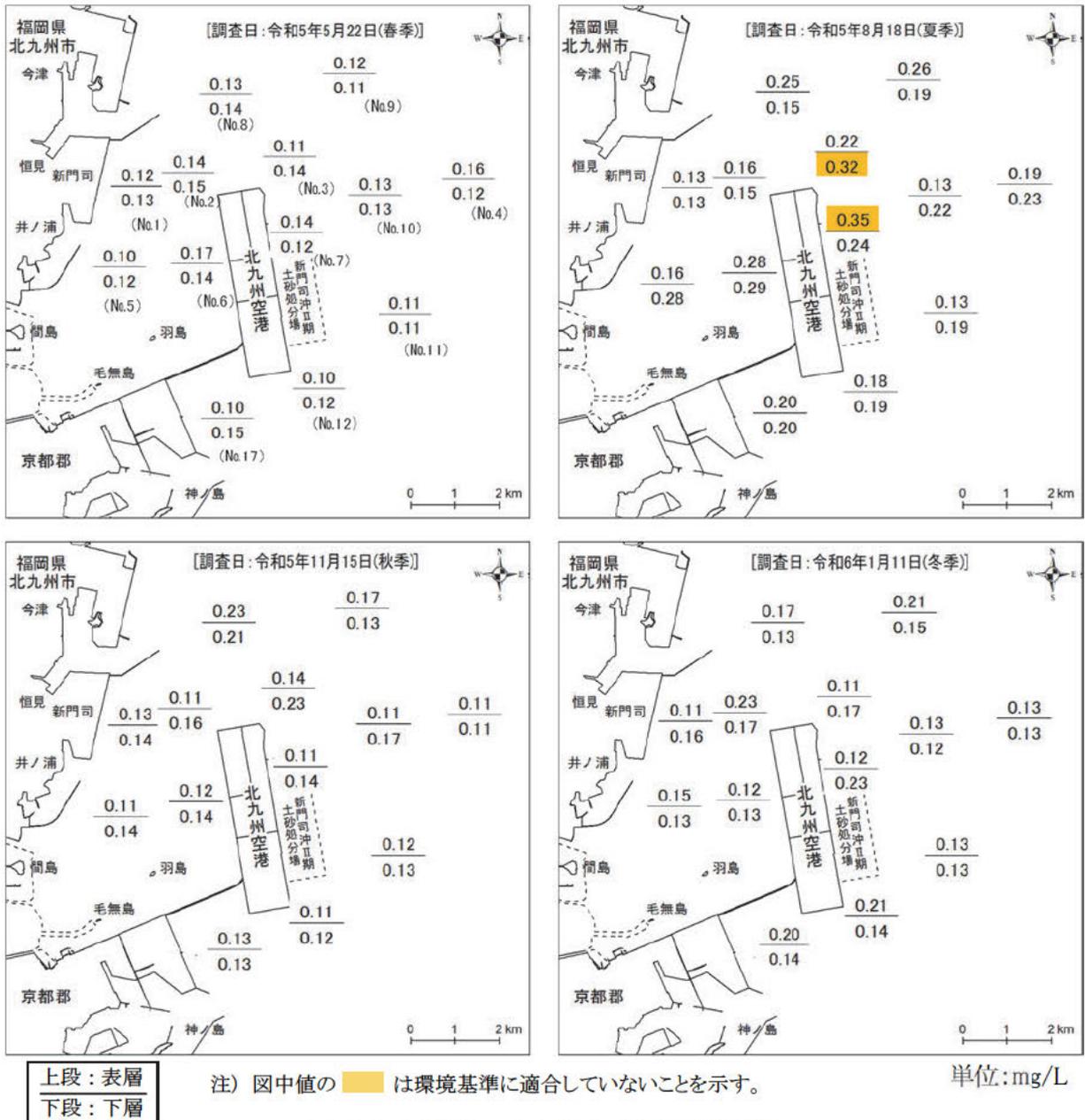
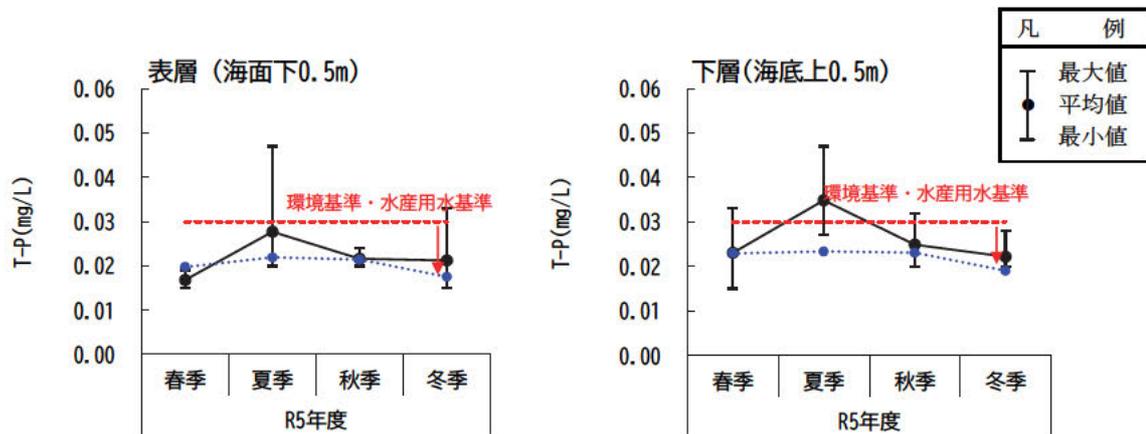


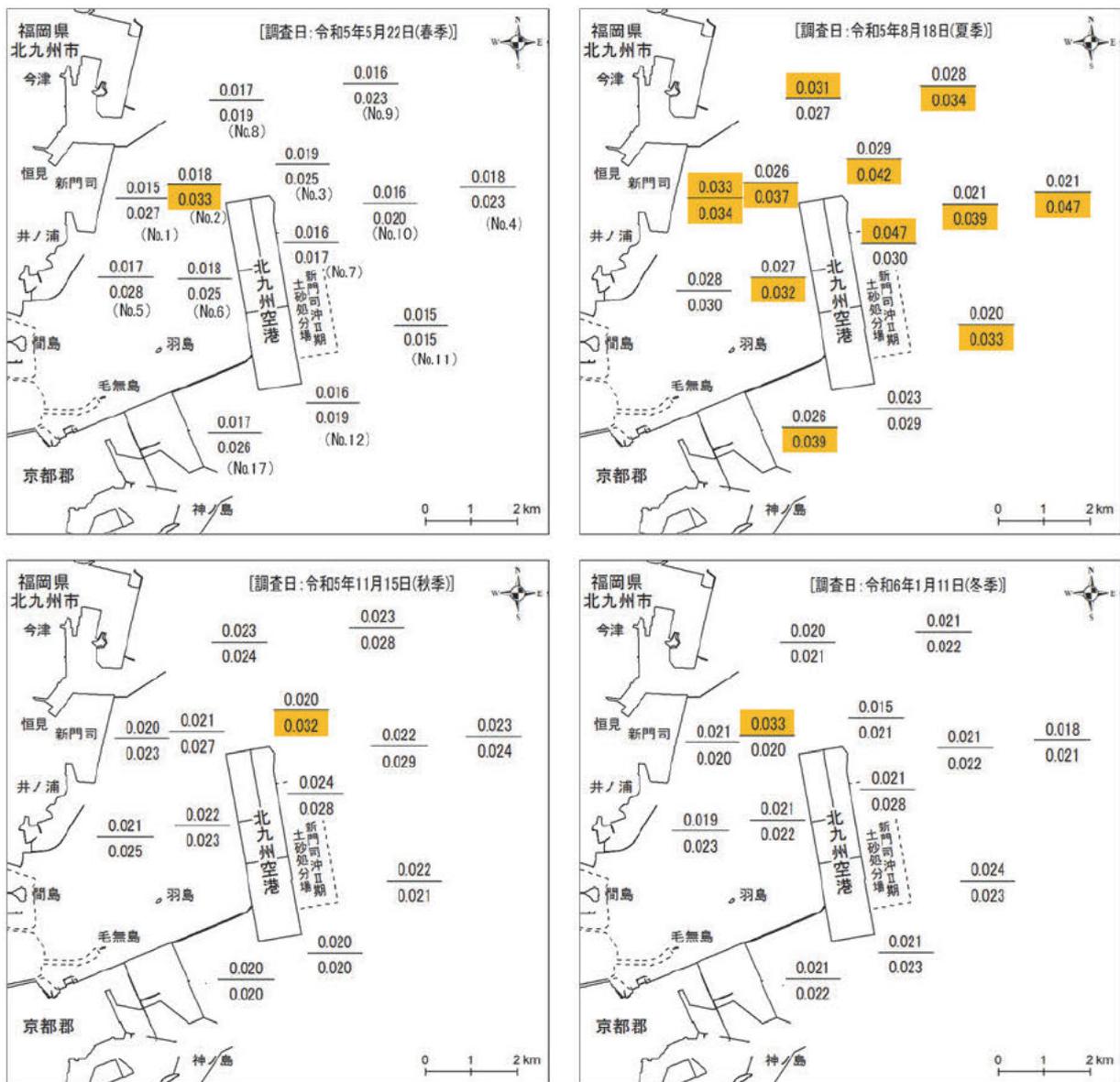
図 2.2.11(11) 水平分布(全窒素(T-N))



注) T-Pの環境基準の達成状況の評価は、表層の年間平均値により行うが、ここでは、季節変動を監視する目的で、層別に全調査地点の統計値(最大、最小、平均)を図化した。

注) 図中の ---●--- は、過年度の全調査点平均の季節変化を示す。

図 2.2.10(12) 全調査地点平均の季節変化(全燐(T-P))

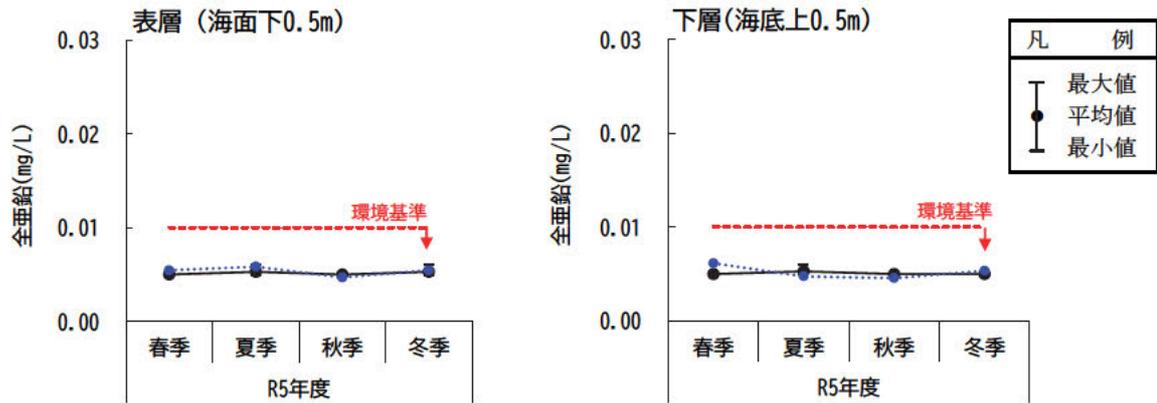


上段: 表層  
下段: 下層

注) 図中値の      は環境基準に適合していないことを示す。

単位: mg/L

図 2.2.11(12) 水平分布(全燐(T-P))



注) 図中の ●●● は、過年度の全調査地点平均の季節変化を示す。

図 2.2.10(13) 全調査地点平均の季節変化 (全亜鉛)

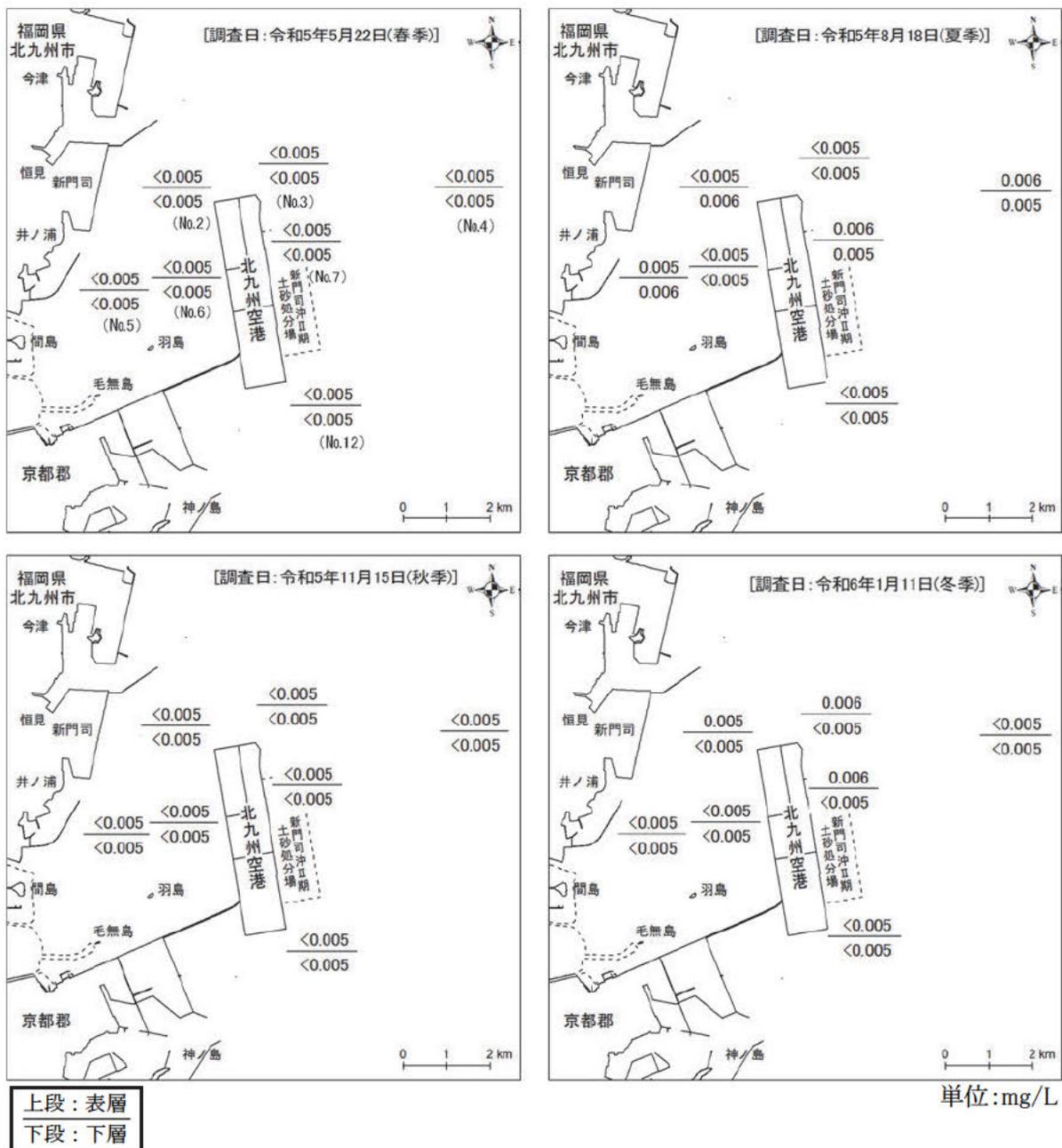


図 2.2.11(13) 水平分布 (全亜鉛)

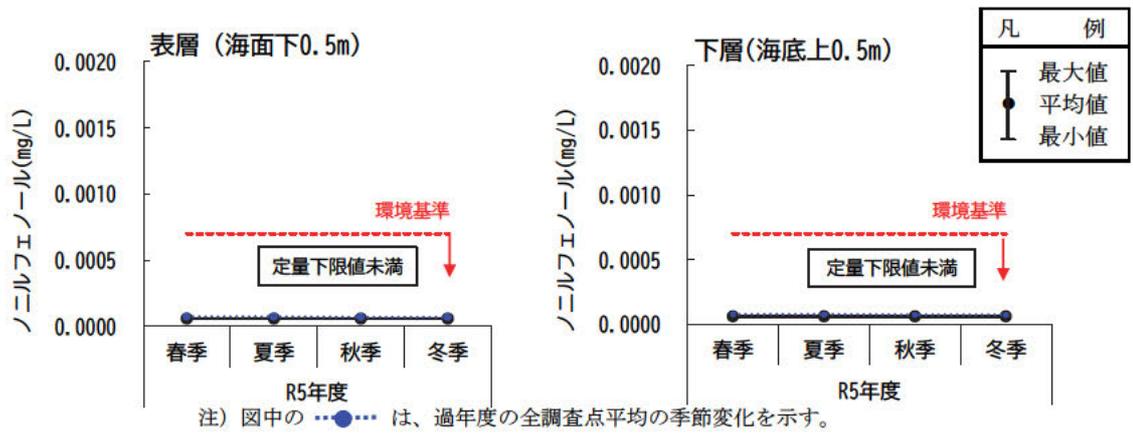


図 2.2.10(14) 全調査地点平均の季節変化 (ノニルフェノール)

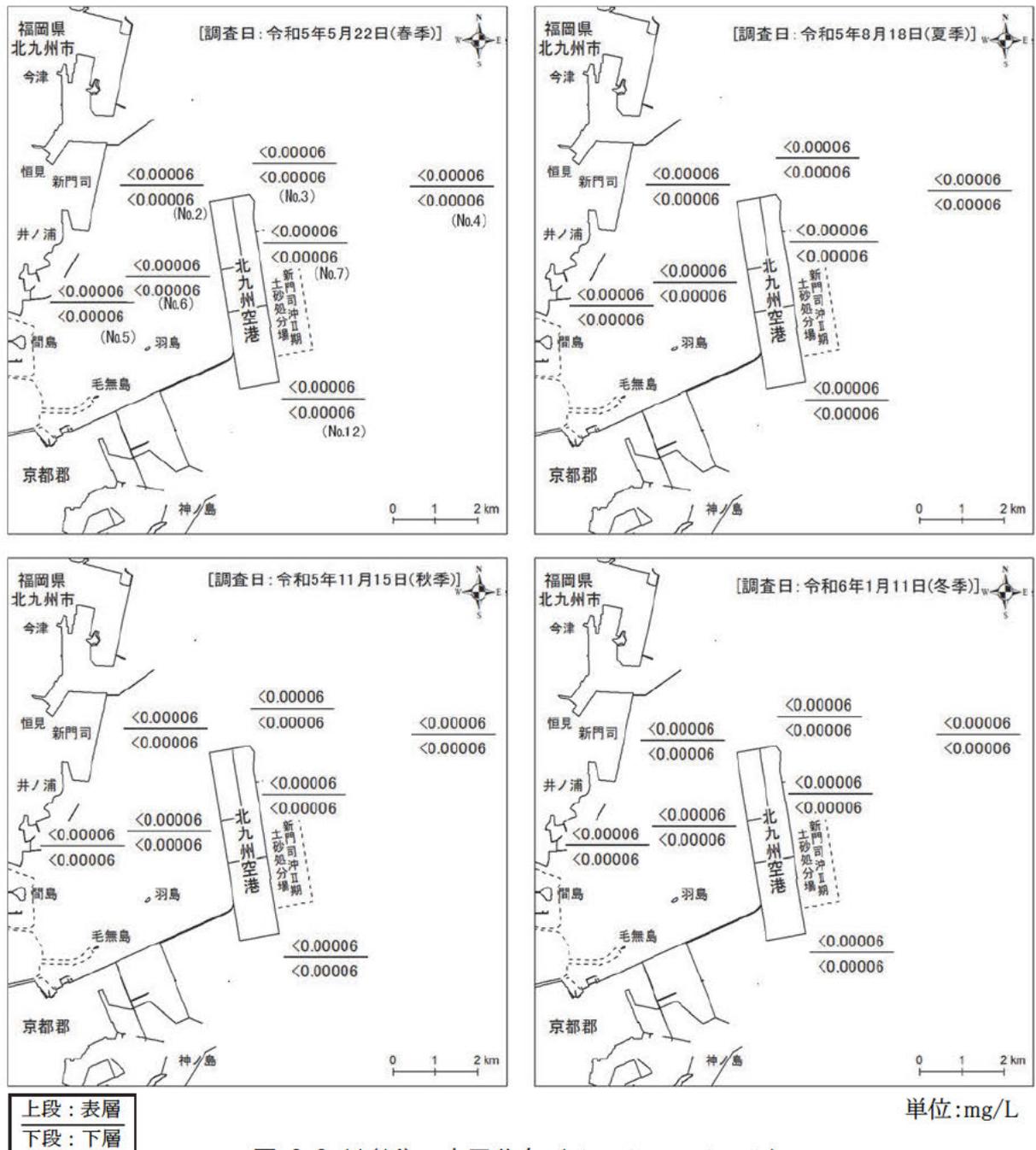


図 2.2.11(14) 水平分布 (ノニルフェノール)

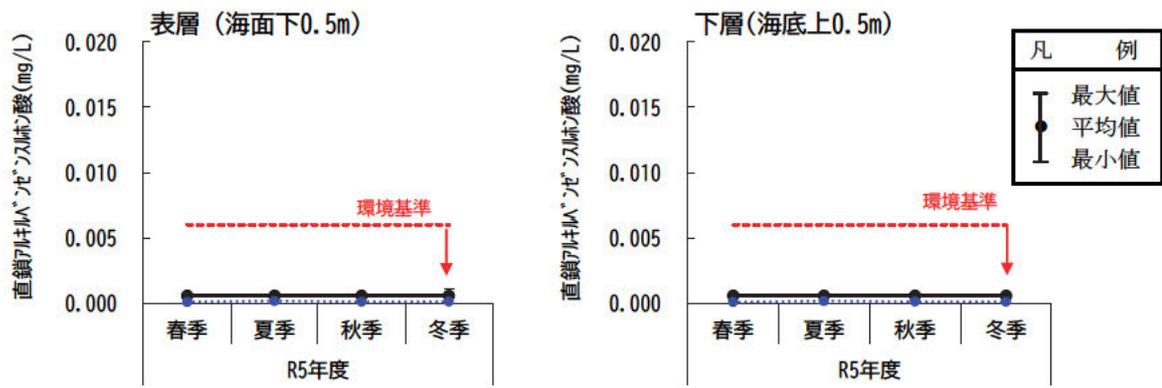


図 2.2.10(15) 全調査地点平均の季節変化(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸(LAS))

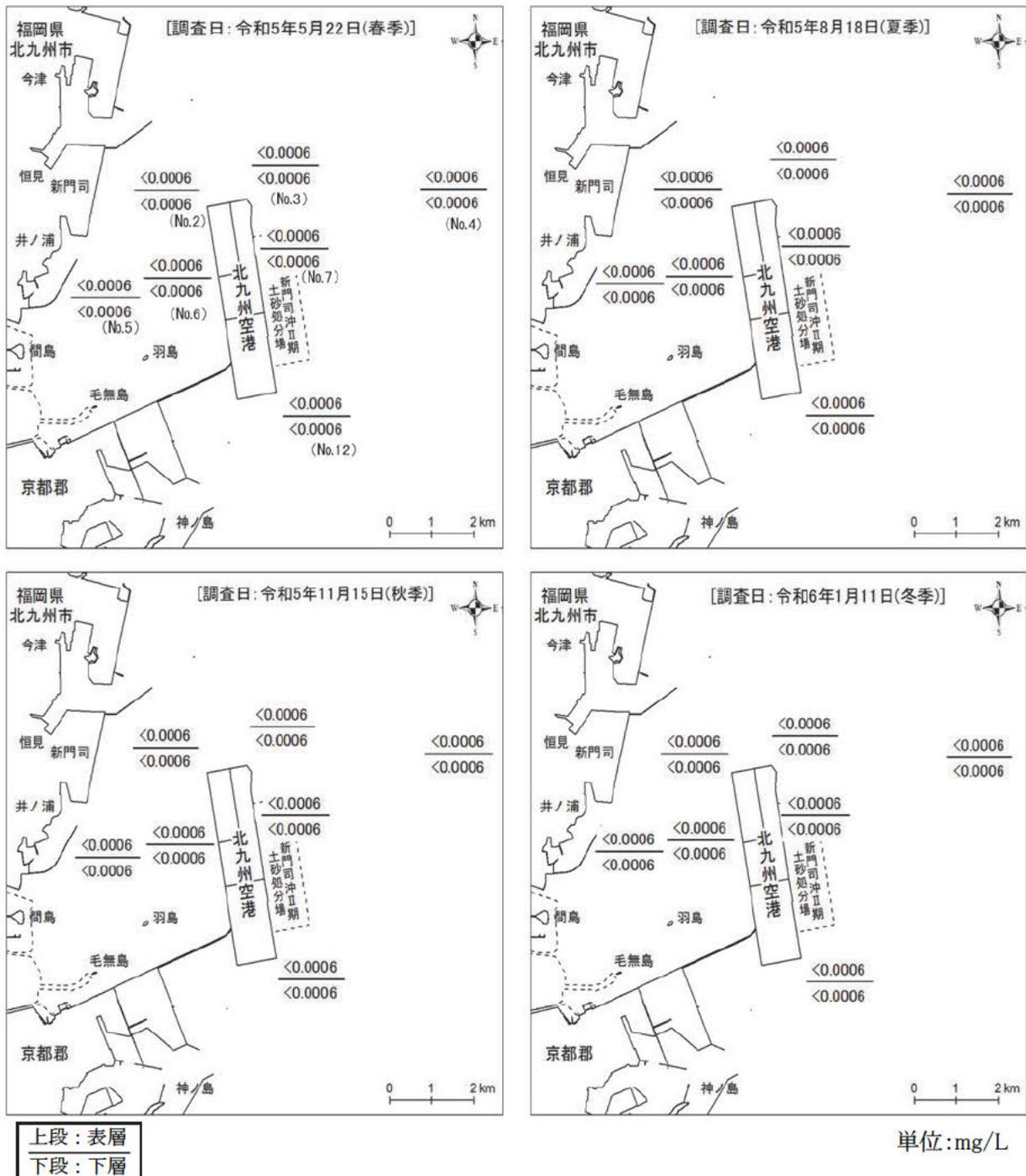
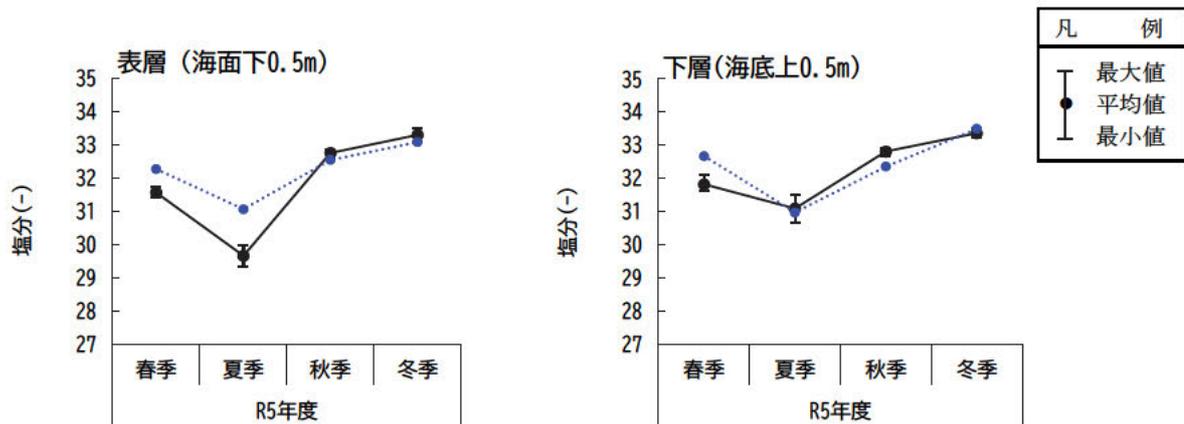


図 2.2.11(15) 水平分布(直鎖アルキルベンゼンスルホン酸(LAS))



注) 図中の ●●● は、過年度の全調査地点平均の季節変化を示す。

図 2.2.10(16) 全調査地点平均の季節変化(塩分)

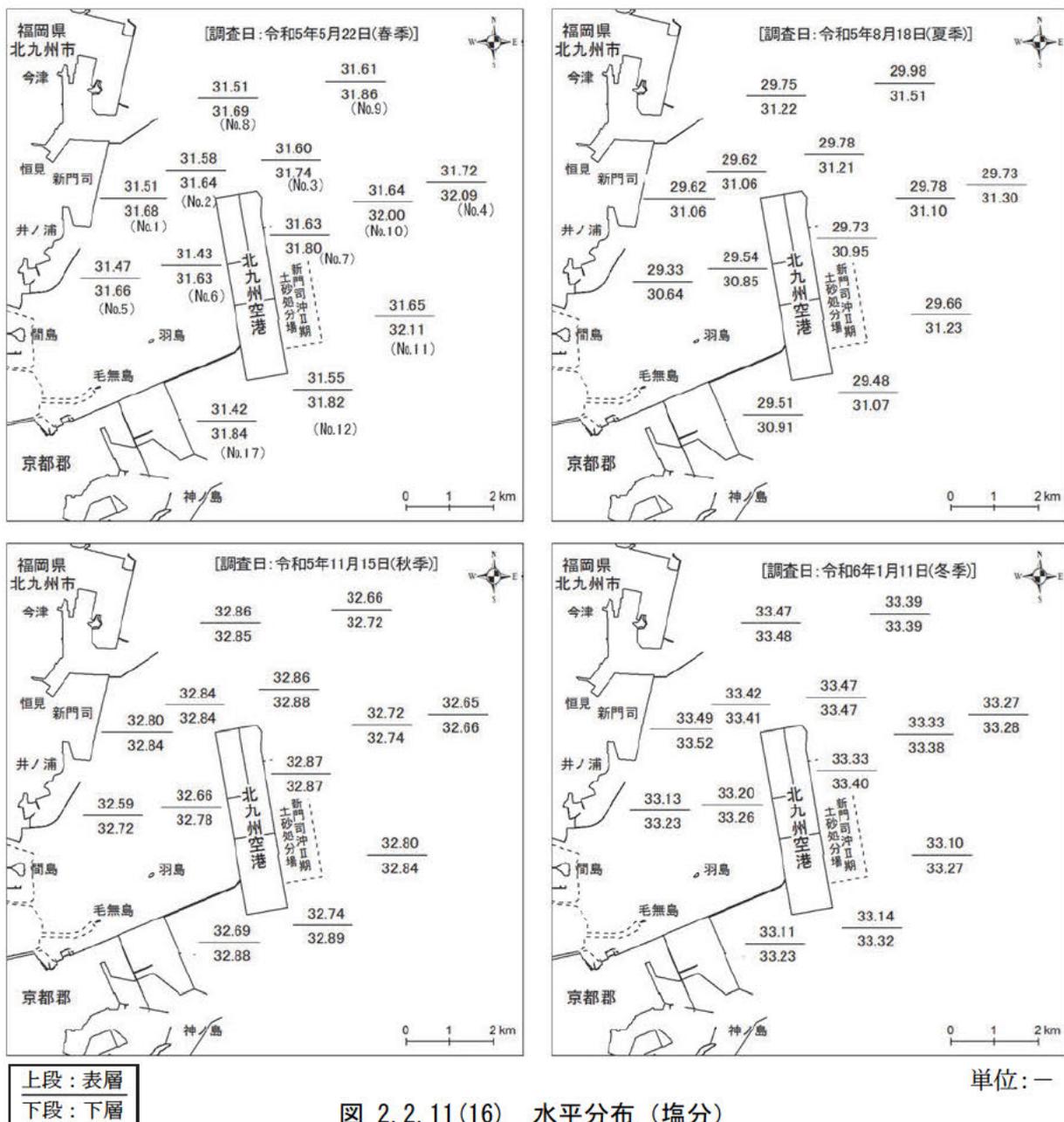
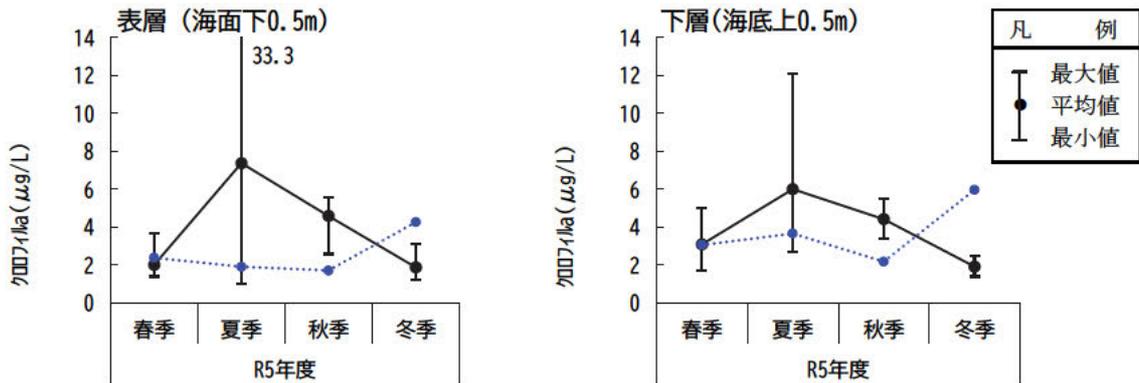


図 2.2.11(16) 水平分布(塩分)



注) 図中の ●●●●● は、過年度の全調査地点平均の季節変化を示す。

図 2.2.10(17) 全調査地点平均の季節変化 (クロロフィル a)

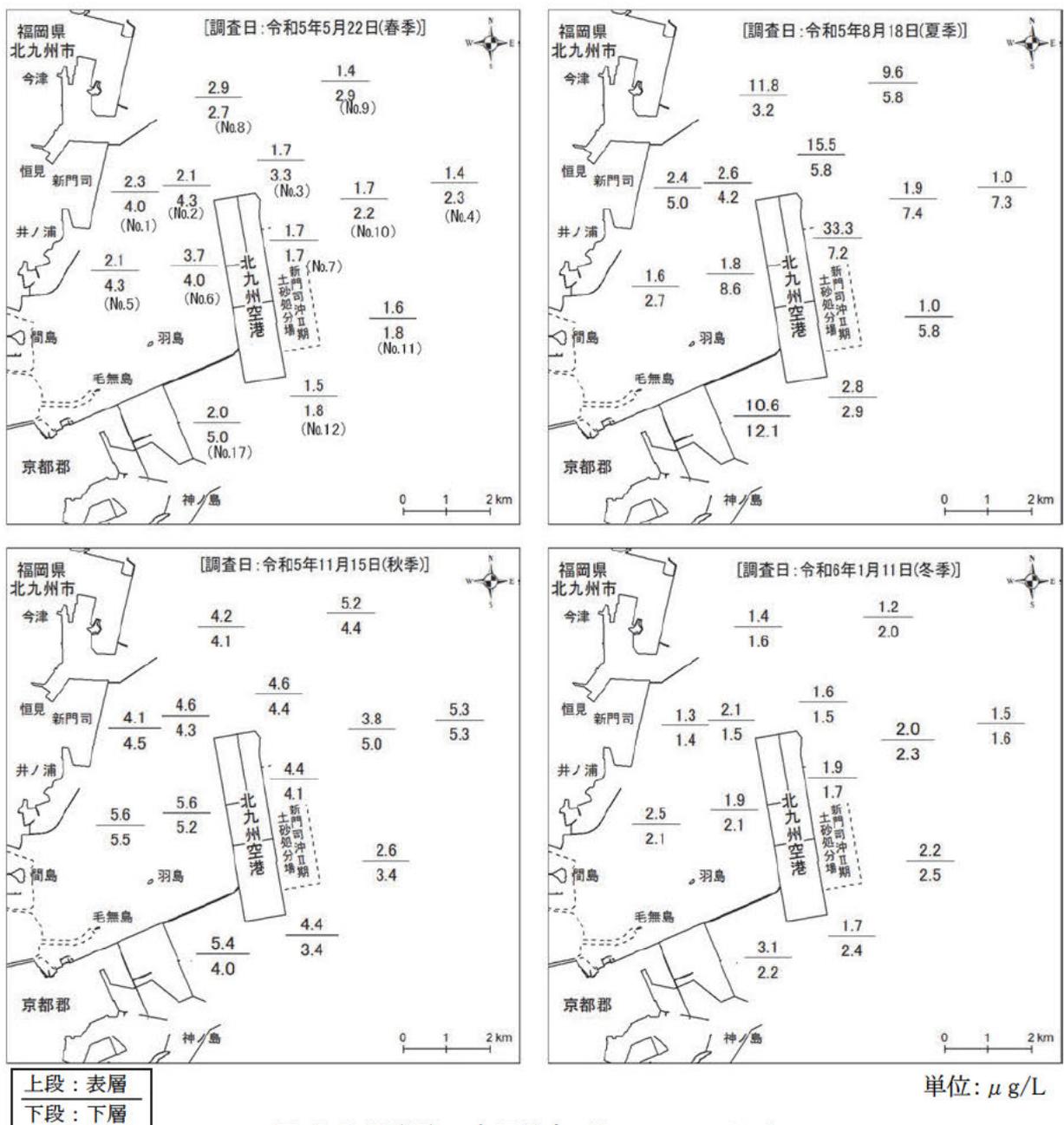


図 2.2.11(17) 水平分布 (クロロフィル a)

## (2) 評価

### 1) 監視基準の適合状況

水質（水の汚れ）の環境監視目標として、環境基準が掲げられていることより、環境基準（海域 A 類型、II 類型、生物 A、生物特 A）との対比を行った。また、水産用水基準（（公財）日本水産資源保護協会）においても、水質項目の基準値が設定されているため、その基準と対比した。水質の監視基準との対比を表 2.2.4 に示す。

#### ① 生活環境項目

##### <環境基準との対比>

水素イオン濃度（pH）、化学的酸素要求量（COD<sub>mn</sub>）\*1、大腸菌群数、大腸菌数\*2、ノルマルヘキサン抽出物質、全亜鉛、ノニルフェノール、直鎖アルキルベンゼンスルホン酸については、四季を通じて環境基準の範囲に収まっていた。

全窒素（T-N）は、四季を通じて表層及び下層ともに、52 検体中 1 検体が基準値より高かった。夏季のみ基準値を上回っていた。

全リン（T-P）は、四季を通じて表層で 52 検体中 4 検体、下層で 52 検体中 11 検体が基準値より高かった。夏季に基準値を上回ることが多かった。

溶存酸素量（DO）は、四季を通じて表層では基準値を満足していたが、下層で 52 検体中 13 検体が基準値より低かった。季別にみると夏季の下層において基準値を下回ることが多かった。一般に夏季は水温が上昇するために、海水中に溶けこむことのできる酸素量が少なくなり、溶存酸素量は低下する。これらの現象は周辺海域で実施されている公共用水域での水質測定結果においても例年みられており、周防灘全体の傾向である（図 2.2.12 参照）。なお、底層 DO の環境基準値（4.0mg/L 以上）との比較の結果、四季を通して全地点で基準値より高かった。

##### <水産用水基準との対比>

水素イオン濃度（pH）、大腸菌群数については、四季を通じて水産用水基準の範囲に収まっていた。

COD<sub>OH</sub> は四季を通じて表層では 28 検体中 7 検体、下層では 28 検体中 9 検体が基準値より高かった。

溶存酸素量（DO）は四季を通じて下層で 52 検体中 9 検体が基準値より低く、季別にみると夏季の下層で低かった。

※1 COD の環境基準達成状況の年間評価については、年 75%値により行うが、環境監視では各調査地点とも年間 4 データのみの測定であるため、検体毎に環境基準値と比較した。

※2 大腸菌数については、当該海域（周防灘）は「A 類型」に指定されており（改正 令和 3 年 10 月 7 日）、令和 5 年度調査ではこの基準値を適用した。なお評価、90%水質値（年間の日間平均値の全データをその値の小さいものから順に並べた際の  $0.9 \times n$  番目（ $n$  は日間平均値のデータ数）のデータ値（ $0.9 \times n$  が整数でない場合は端数を切り上げた整数番目の値をとる。））とされており、季節別の 1 日 1 回のデータと対比した。

※3 T-N、T-P の環境基準達成状況の評価は、表層の年間平均値により行うが、表層、下層ともに検体毎に環境基準値と比較した。

表 2.2.4(1) 水質の監視基準(環境基準)との対比

項目	環境基準値	時期	春季 (令和5年5月22日)		夏季 (令和5年8月18日)		秋季 (令和5年11月15日)		冬季 (令和6年1月11日)		年間	
			層	m / n	不適合率 (%)	m / n	不適合率 (%)	m / n	不適合率 (%)	m / n	不適合率 (%)	m / n
水素イオン濃度 (pH)	7.8~8.3	表層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
		下層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
化学的酸素要求量 (COD <sub>Mn</sub> )	2mg/L以下	表層	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	0 / 52	0.0
		下層	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	0 / 52	0.0
溶存酸素量 (DO)	7.5mg/L以上 4.0mg/L以上	表層	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	0 / 52	0.0
		下層	0 / 13	0.0	13 / 13	100.0	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	13 / 52	25.0
大腸菌群数	1,000MPN/ 100mL以下	表層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
		下層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
大腸菌数	300CFU/ 100mL以下	表層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
		下層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
n-ヘキサン抽出物質 (油分等)	検出されない こと	表層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
		下層	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全窒素 (T-N)	0.3mg/L 以下	表層	0 / 13	0.0	1 / 13	7.7	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	1 / 52	1.9
		下層	0 / 13	0.0	1 / 13	7.7	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	1 / 52	1.9
全燐 (T-P)	0.03mg/L 以下	表層	0 / 13	0.0	3 / 13	23.1	0 / 13	0.0	1 / 13	7.7	4 / 52	7.7
		下層	1 / 13	7.7	9 / 13	69.2	1 / 13	7.7	0 / 13	0.0	11 / 52	21.2
全亜鉛 (Zn)	0.01mg/L 以下	表層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
		下層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
ノニルフェノール	0.0007mg/L 以下	表層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
		下層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
直鎖アルキルベンゼン スルホン酸	0.006mg/L 以下	表層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
		下層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0

注1) 表層:海面下0.5m、下層:海底上0.5m

注2) m:基準に適合しない検体数、n:総検体数

■ 不適合率50%以上を示す。

■ 不適合率20%以上を示す。

表 2.2.4(2) 水質の監視基準(水産用水基準)との対比

項目	水産用水基準値	時期	春季 (令和5年5月22日)		夏季 (令和5年8月18日)		秋季 (令和5年11月15日)		冬季 (令和6年1月11日)		年間	
			層	m / n	不適合率 (%)	m / n	不適合率 (%)	m / n	不適合率 (%)	m / n	不適合率 (%)	m / n
化学的酸素要求量 (COD <sub>OH</sub> )	1mg/L以下	表層	2 / 7	28.6	5 / 7	71.4	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	7 / 28	25.0
		下層	3 / 7	42.9	6 / 7	85.7	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	9 / 28	32.1
溶存酸素量 (DO)	6.0mg/L 以上	表層	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	0 / 52	0.0
		下層	0 / 13	0.0	9 / 13	69.2	0 / 13	0.0	0 / 13	0.0	9 / 52	17.3
水素イオン濃度 (pH)	7.8~8.4	表層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
		下層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
大腸菌群数	1,000MPN/ 100mL以下	表層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0
		下層	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 7	0.0	0 / 28	0.0

注1) 表層:海面下0.5m、下層:海底上0.5m

注2) m:基準に適合しない検体数、n:総検体数

■ 不適合率50%以上を示す。

■ 不適合率20%以上を示す。

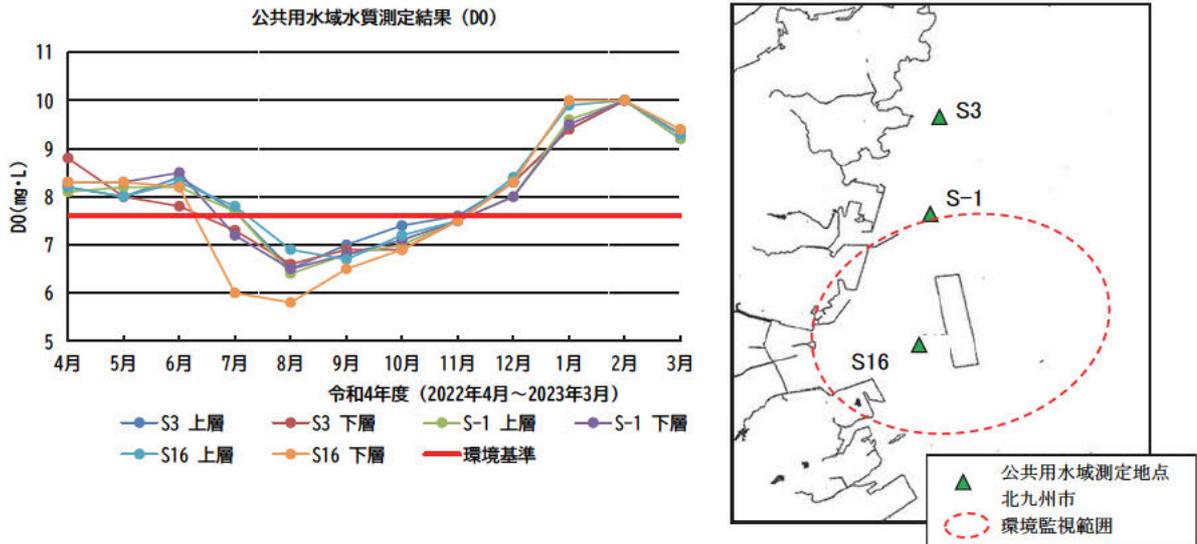


図 2.2.12 公共用水域水質測定結果 (DO)

## 2) 経年変化

令和元年度から令和5年度までの全調査点平均の経年変化を図 2.2.13 に示す。

令和5年度の水質は、各項目とも過年度と概ね同程度の値で推移しており、大きな変化傾向はみられなかった。

### ① 水素イオン濃度 (pH)

表層、下層とも変動は小さく、8.0～8.4 の範囲内にあり、経年的な傾向はみられなかった。令和元年夏季の表層は環境基準を超過していたものの、水産用水基準は満足していた。

### ② 化学的酸素要求量 (酸性法:COD<sub>Mn</sub>)

表層、下層とも環境基準値である 2.0mg/L の値前後で概ね変動しており、経年的な傾向はみられなかった。季節的には、表層、下層ともに春～夏季にやや高く、秋～冬季に低くなる傾向がみられた。季別の平均値が環境基準を超過した時期は、表層、下層とも令和元年度及び令和3年度の夏季であり、令和2年度の春季も表層、下層とも比較的高い値を示した。

### ③ 化学的酸素要求量 (アルカリ法:COD<sub>OH</sub>)

表層、下層とも令和元年度の夏季や令和2年度の春季に高い傾向にあり、経年的にやや低下する傾向がみられた。表層、下層ともに同程度の値を示していた。季節的な変動では、表層、下層ともに春～夏季にやや高く、秋～冬季に低くなる傾向がみられた。

### ④ 溶存酸素量 (DO)

表層、下層とも季節的な変動が明瞭にみられており、夏季に低く、冬季に高い傾向にあった。環境基準との比較では、夏季の平均値は表層、下層ともに概ね環境基準値 (7.5mg/L 以上) を下回る値がみられたが、貧酸素状態に至るほどではなく、令和5年度の夏季を除いて、水産用水基準値 (6.0mg/L 以上) には適合していた。

DO 飽和度は、表層、下層とも概ね 100%前後で推移していた。夏季の下層でも概ね 90%を超えていたが、令和5年度夏季には 85%とやや低かった。

⑤ 大腸菌群数

直近 5 か年の結果では低い値で推移しており、いずれも環境基準を大きく下回る値で推移していた。

⑥ 大腸菌数

令和 4 年度、令和 5 年度の結果では、環境基準を大きく下回る値で推移していた。

⑦ ノルマルヘキサン抽出物質（油分等）

直近 5 か年の結果では全ての調査地点で 0.5 mg/L 未満（定量下限値未満）であり、検出されなかった。

⑧ 全窒素(T-N)

直近 5 か年の結果では、表層、下層ともに概ね環境基準値以下で推移していた。夏季に高く、冬季に低くなる傾向がみられた。

⑨ 全磷(T-P)

直近 5 か年の結果では、令和 4 年度までは表層、下層ともに環境基準値以下で推移していたが、令和 5 年夏季には、表層、下層とも比較的高い値を示し、下層では環境基準を超過していた。

⑩ 全亜鉛(Zn)

直近 5 か年の結果では、令和 2 年度春季の下層で基準値の超過がみられた以外は、環境基準値以下で推移していた。

⑪ ノニルフェノール

直近 5 か年の結果では、表層、下層ともに定量下限値（0.00006 mg/L）付近の低濃度で推移した。

⑫ 直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩(LAS)

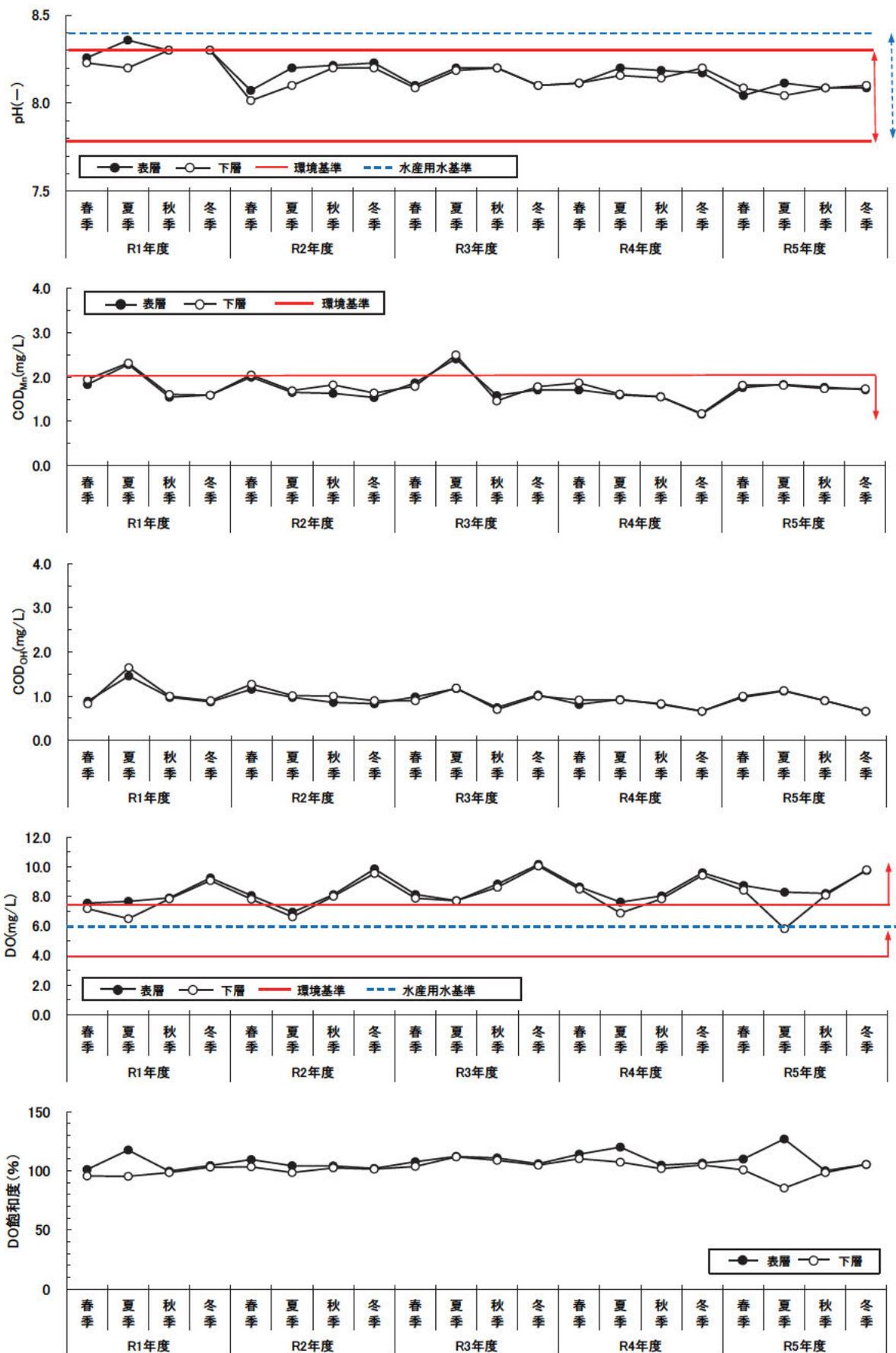
直近 5 か年の結果では、表層、下層ともに定量下限値（0.0006 mg/L）付近の低濃度で推移した。

⑬ 塩分

直近 5 か年の結果では、表層、下層とも、28～34 の範囲で推移しており、顕著な経年変化は認められなかった。

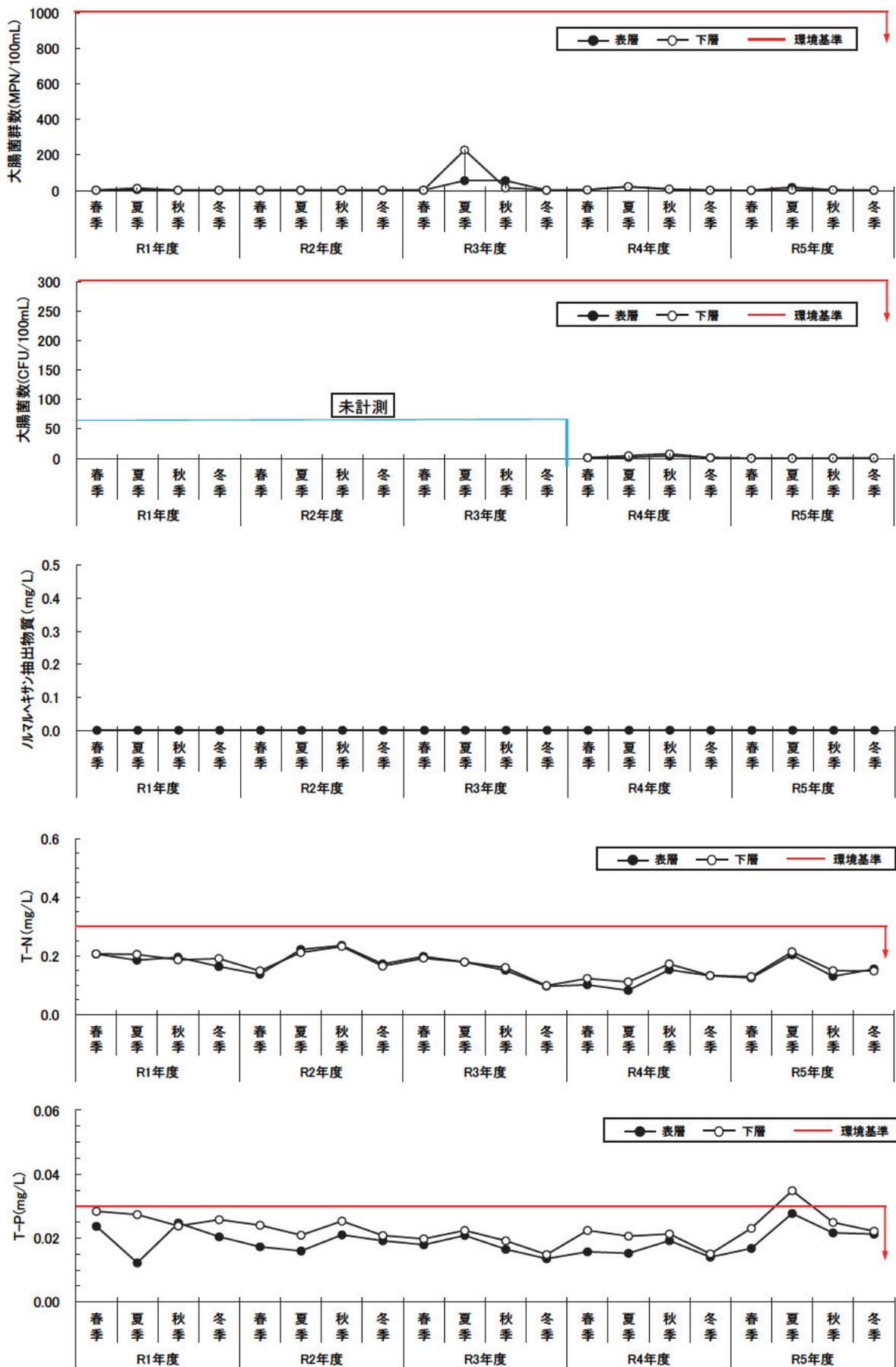
⑭ クロロフィル a

直近 5 か年の結果では、令和元年度冬季と令和 5 年夏季に高い値がみられた。調査期間を通して表層よりも下層でやや高い傾向がみられた。



注) CODの環境基準達成状況の年間評価については75%値により行うが、ここでは、季節変動を監視する目的で季別の全調査地点平均値を図化した。

図 2.2.13(1) 全調査地点平均の経年変化



注) T-N、T-Pの環境基準の達成状況は表層の年間平均値により行うが、ここでは、季節変動を監視する目的で季節別の全調査地点平均値を図化した。

図 2.2.13(2) 全調査地点平均の経年変化

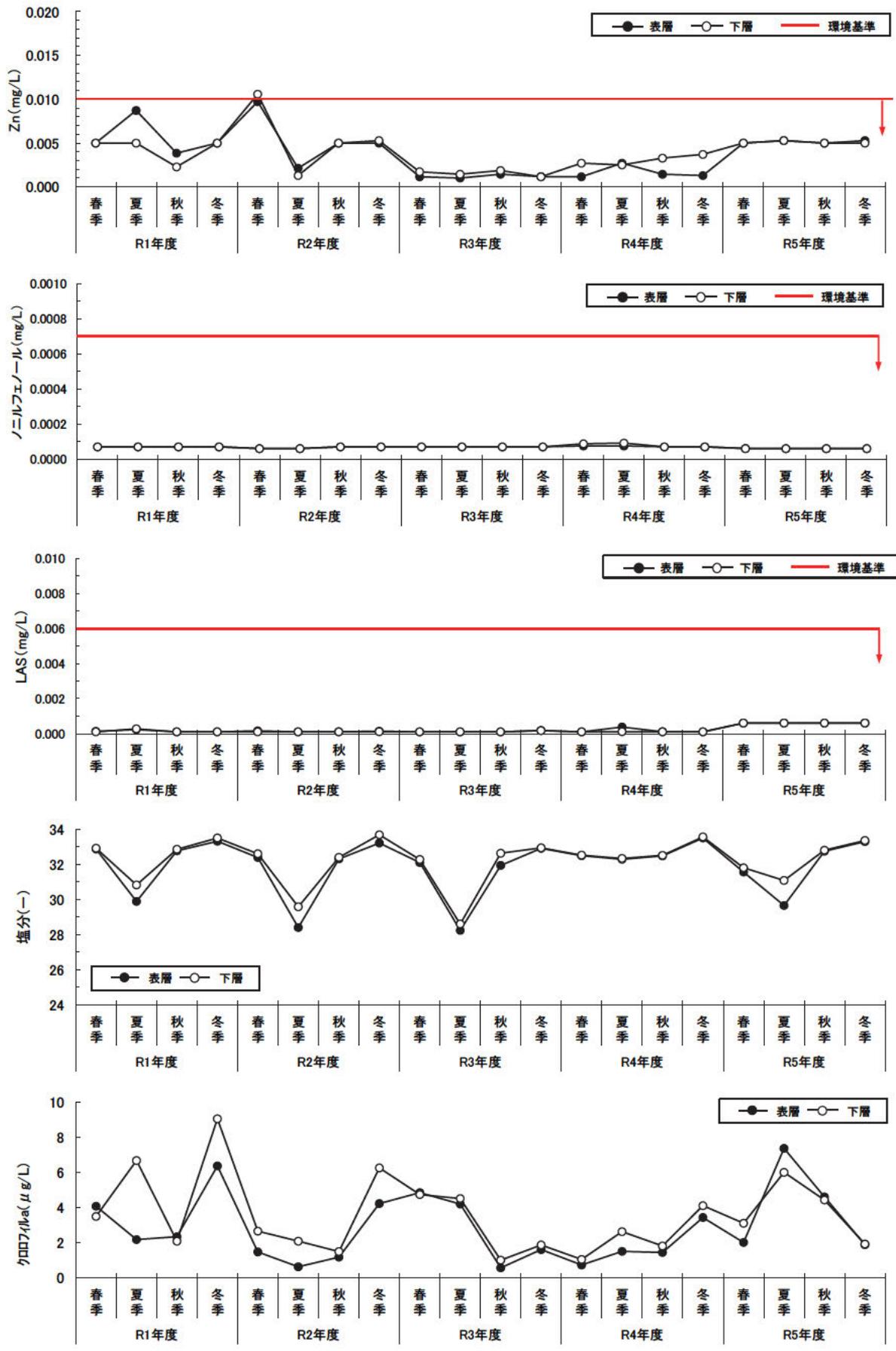


図 2.2.13(3) 全調査地点平均の経年変化

### 3) 公共用水域水質測定結果との比較

当該海域では、公共用水域水質測定地点が設定されており、継続的に環境基準に係る水質項目の調査が行われている。また、国土交通省でも、海洋環境整備事業の一環として、瀬戸内海の水質について、瀬戸内海総合水質調査を年4回実施しており近傍に調査地点が設定されている(図2.2.14)。現時点で結果が公表されている令和4年度までの公共用水域結果及び瀬戸内海総合水質調査結果の傾向と、令和5年度までの調査結果の比較結果を図2.2.15に示す。

化学的酸素要求量(COD<sub>mn</sub>)は公共用水域データ(R1~R4年)をみると、平均値は1.8~2.0mg/Lの値を示しており、本調査の同期間の地点間平均値(1.5~1.9mg/L)とほぼ同程度の値を示した。その他の項目においては、平均値は概ね他調査結果の過年度の範囲内に収まっていた。

### 4) 水質(水の汚れ)調査結果のまとめ

令和5年度の水質(水の汚れ)の調査結果は、夏季の下層で全磷(T-P)がやや高い値を示したものの、各項目とも概ね過年度と同程度の値で推移していた。

環境基準と対比すると、全窒素(T-N)、全磷(T-P)、溶存酸素量(DO)を除いて概ね環境基準の範囲内に収まっていた。環境基準の範囲外となるが多かった全磷(T-P)、溶存酸素量(DO)については、夏季の下層で範囲外になる傾向がみられた。

公共用水域の測定結果と比較すると、平均値は概ね公共用水域の測定結果と同程度であった。

以上のことから、埋立地周辺の水質は、周防灘全体の水質を反映した結果となっており、過年度からの結果では、水質悪化と認められる変化(COD<sub>mn</sub>の増加やDOの低下等)はみられなかった。

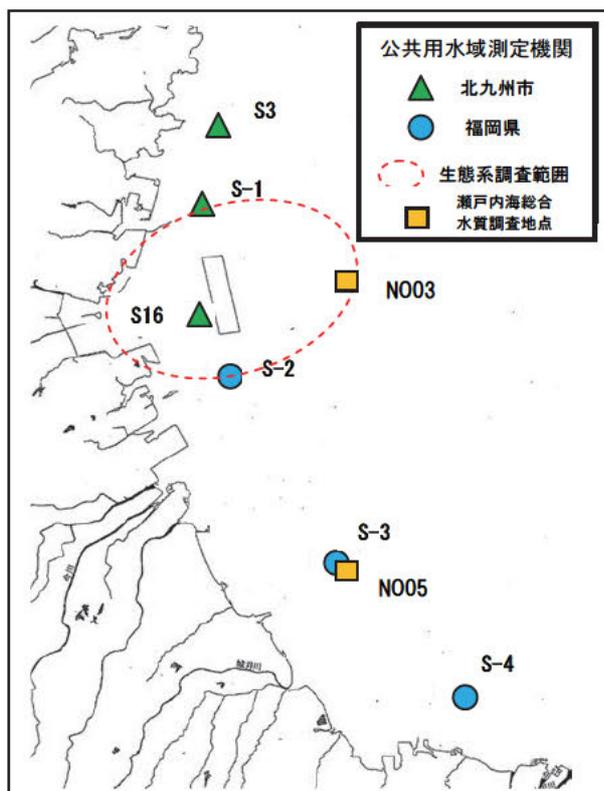


図 2.2.14 公共用水域測定地点及び生態系調査範囲

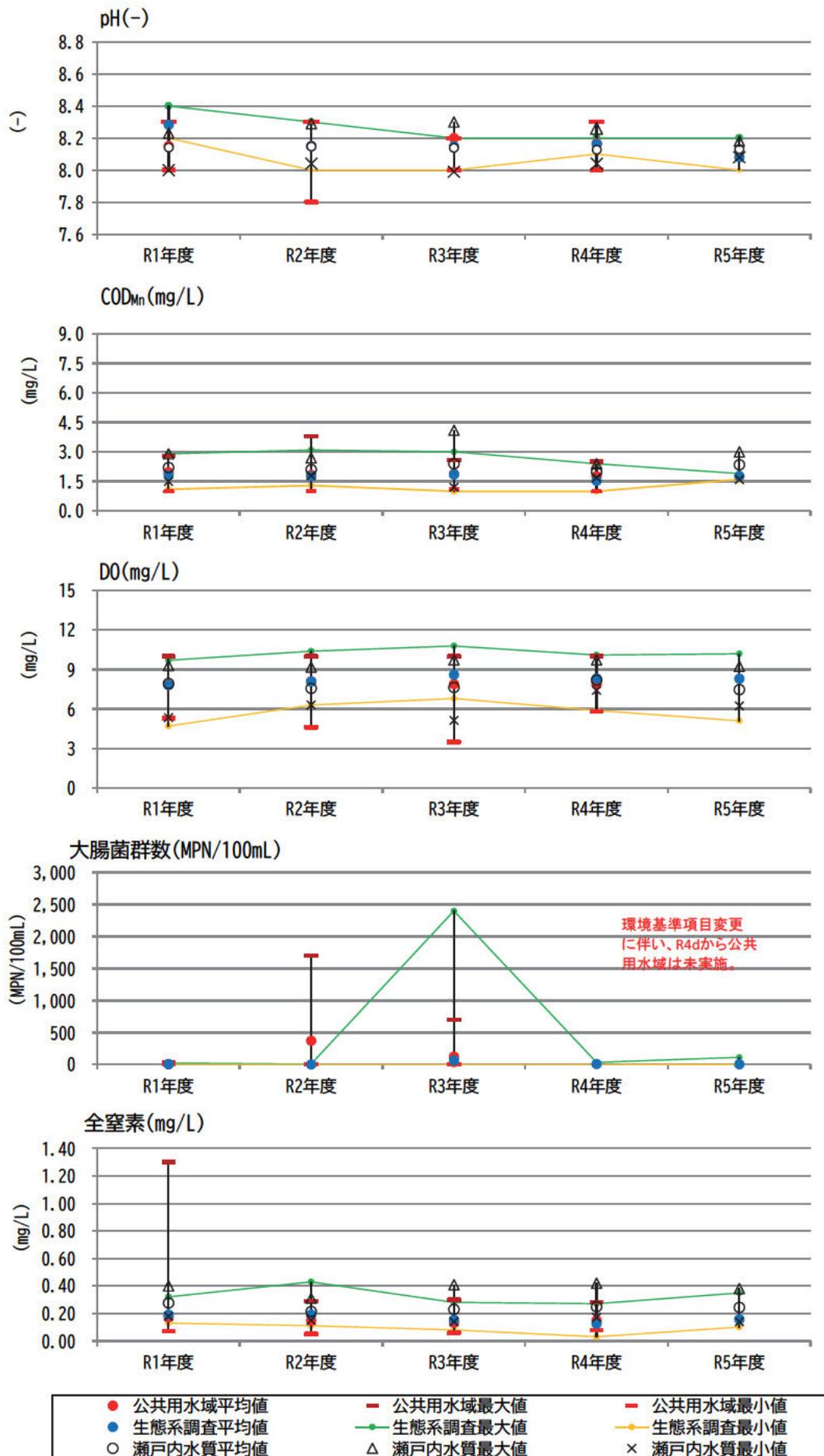


図 2.2.15(1) 公共用水域水質調査結果との比較

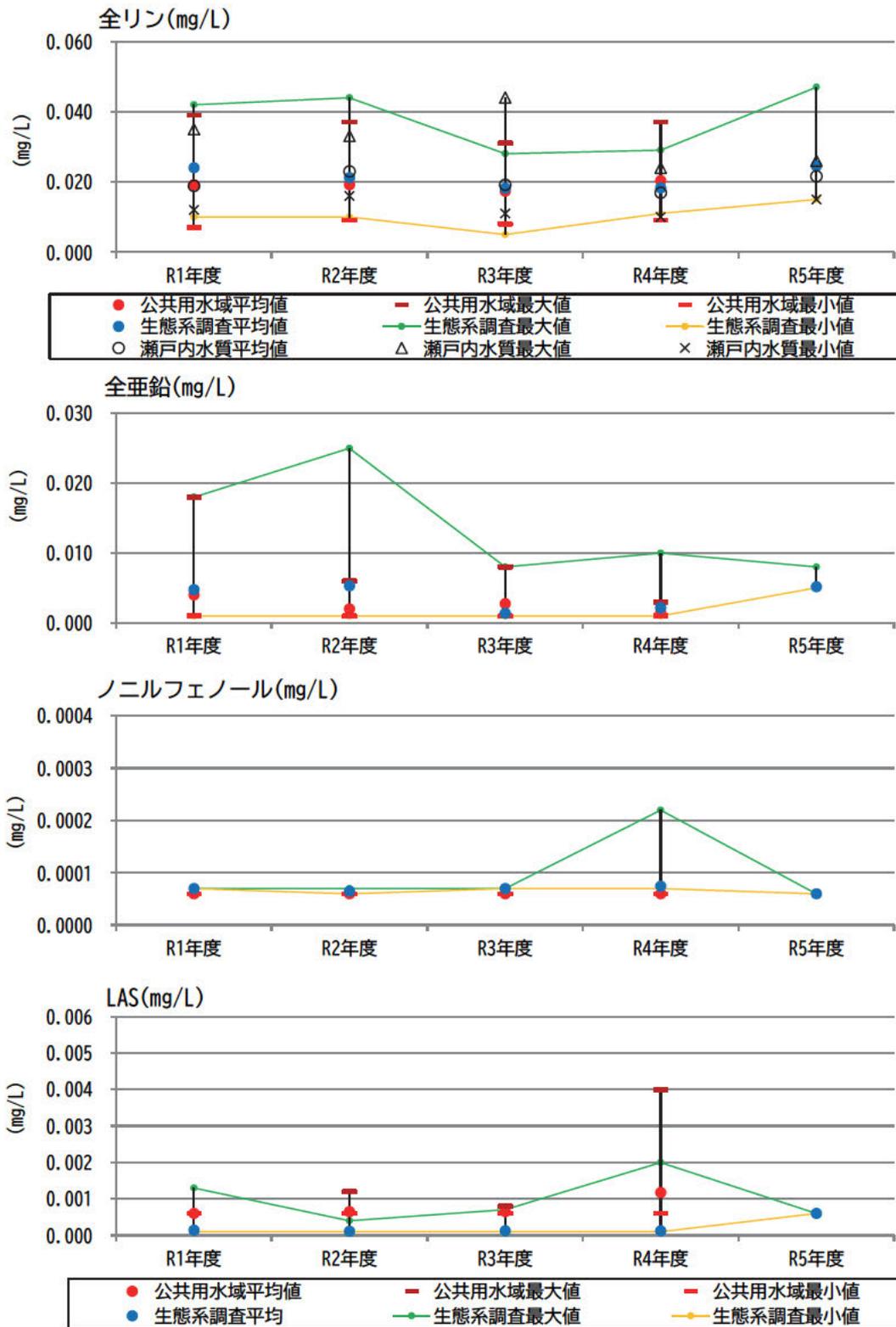


図 2.2.15(2) 公共用水域水質調査結果との比較

## 2.2.5 底質

底質調査については、令和5年8月12日（夏季調査）、令和6年1月16日（冬季調査）に実施した。調査地点は、図2.1.1(1)に示すとおりとした。

### (1) 調査結果

底質調査結果の概要を表2.2.5に、水平分布を図2.2.16に示す。

#### ① 含水率

含水率は53.9～68.2%（平均59.9%）の範囲にあり、夏季に比べ冬季にやや高い傾向にあった。水平分布をみると、夏季、冬季とも空港島西側のNo.6でやや高かった。

#### ② 強熱減量(IL)

強熱減量は6.6～9.7%（平均8.0%）の範囲にあり、冬季に比べ夏季にやや高い傾向にあった。水平分布をみると、空港島西側のNo.6と空港島南東側のNo.16でやや高かった。

#### ③ 化学的酸素要求量(CODsed)

CODsedは13.0～19.3mg/g（平均15.5mg/g）の範囲にあり、冬季に比べ夏季にやや高い傾向にあった。水平分布をみると、空港島西側のNo.6や空港島南東側のNo.16でやや高かった。

#### ④ 硫化物(T-S)

T-Sは0.21～0.97mg/g（平均0.45mg/g）の範囲にあり、夏季、冬季ともに平均値は同程度であった。水平分布をみると夏季及び冬季とも、ほとんどの調査地点で水産用水基準(0.2mg/g以下)より高かった。夏季、冬季とも空港島西側のNo.6で高かった。

#### ⑤ 全窒素(T-N)

T-Nは1.64～2.36mg/g（平均1.89mg/g）の範囲にあり、冬季に比べ夏季にやや高い傾向にあった。水平分布をみると、空港島西側のNo.6や空港島南東側のNo.16でやや高かった。

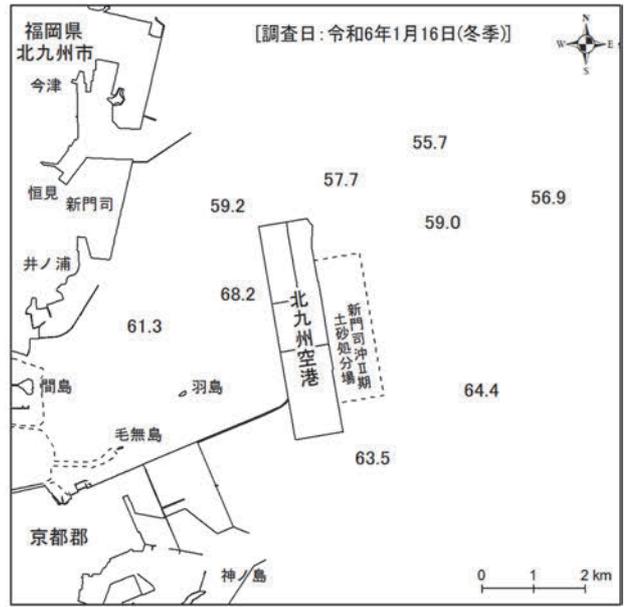
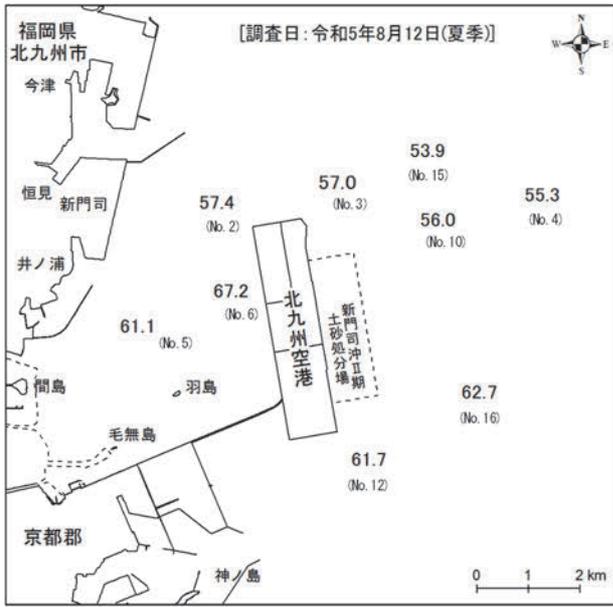
#### ⑥ 全リン(T-P)

T-Pは0.41～0.55mg/g（平均0.47mg/g）の範囲にあり、夏季及び冬季ともに平均値は同程度であった。水平分布をみると、夏季、冬季とも空港島西側のNo.6で高かった。

表 2.2.5 底質調査結果の概要

項目	単位	夏季 令和5年8月12日		冬季 令和6年1月16日		二季 (令和5年度)		
		平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	平均値	最小値 ～ 最大値	
含水率	%	59.1	53.9 ～ 67.2	60.7	55.7 ～ 68.2	59.9	53.9 ～ 68.2	
強熱減量(IL)	%	8.4	7.6 ～ 9.7	7.6	6.6 ～ 8.9	8.0	6.6 ～ 9.7	
化学的酸素要求量 (CODsed)	mg/g	16.5	15.1 ～ 19.3	14.4	13.0 ～ 16.9	15.5	13.0 ～ 19.3	
硫化物(T-S)	mg/g	0.45	0.27 ～ 0.97	0.44	0.21 ～ 0.91	0.45	0.21 ～ 0.97	
全窒素(T-N)	mg/g	1.95	1.71 ～ 2.36	1.82	1.64 ～ 2.07	1.89	1.64 ～ 2.36	
全リン(T-P)	mg/g	0.47	0.41 ～ 0.55	0.47	0.45 ～ 0.52	0.47	0.41 ～ 0.55	
粒度組成	礫分	%	0.9	0.0 ～ 5.4	0.1	0.0 ～ 0.4	0.5	0.0 ～ 5.4
	砂分	%	7.1	1.9 ～ 15.5	3.2	0.5 ～ 5.8	5.2	0.5 ～ 15.5
	泥分	%	91.9	79.1 ～ 97.9	96.7	93.8 ～ 99.5	94.3	79.1 ～ 99.5

含水率(%)



強熱減量(%)

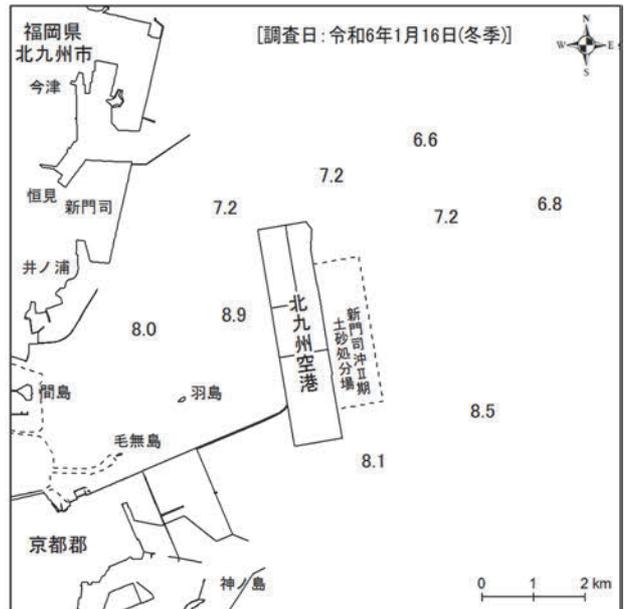
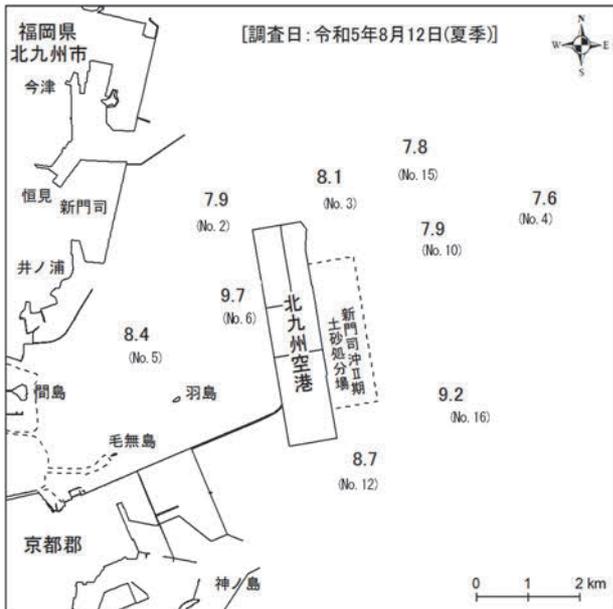
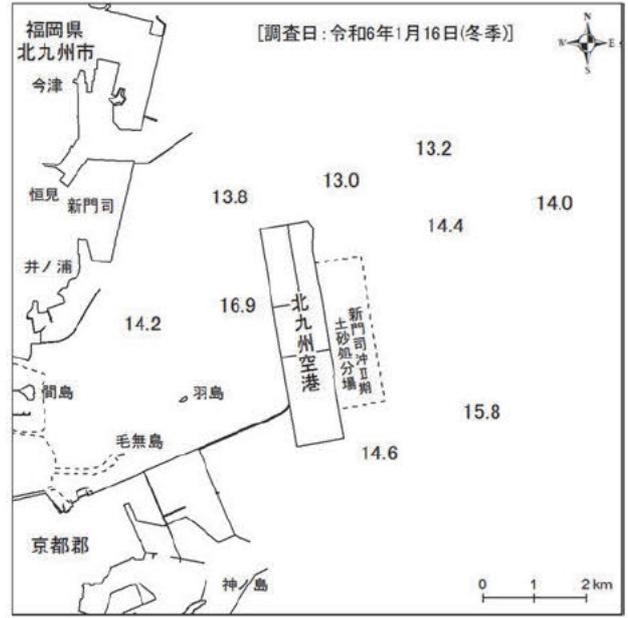
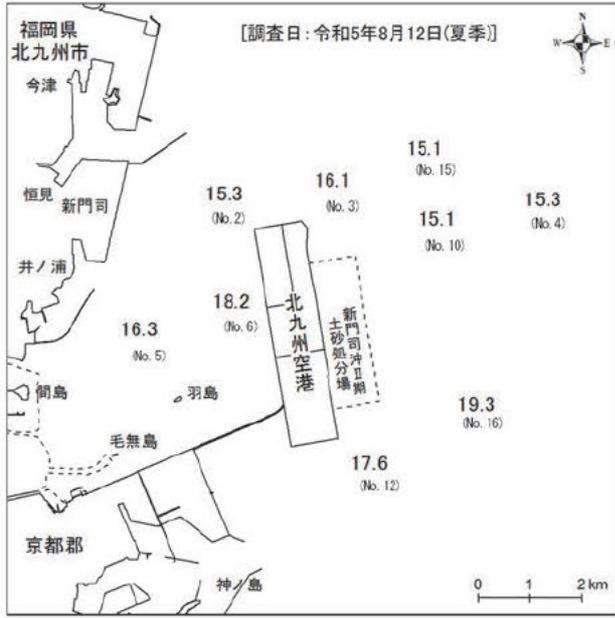
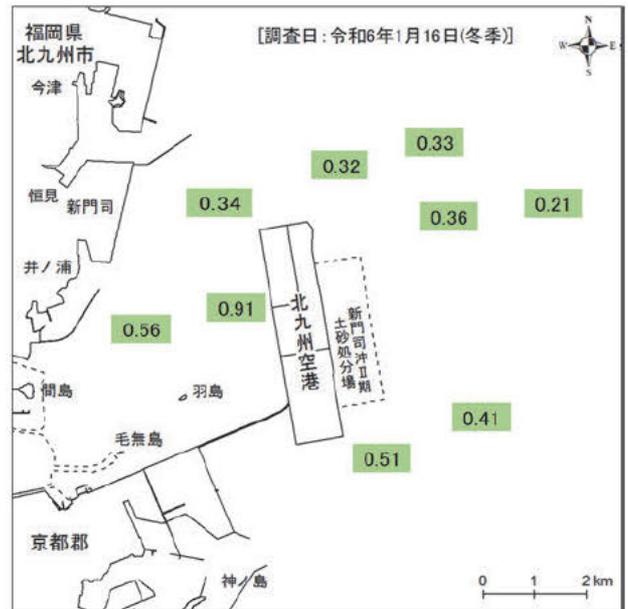
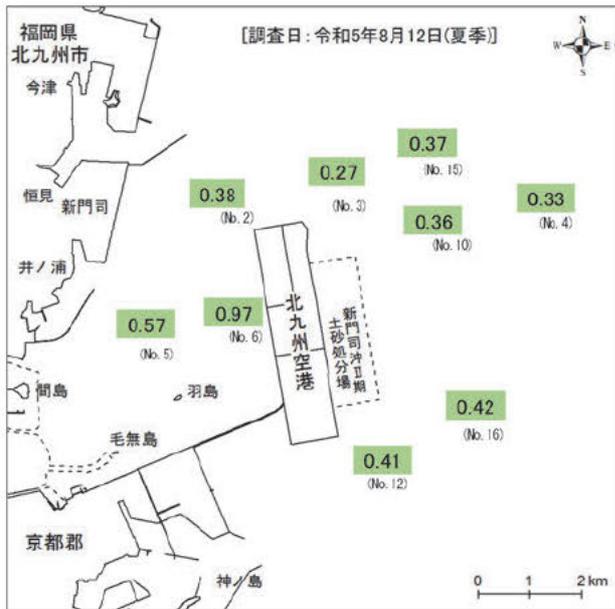


図 2.2.16 (1) 底質の水平分布 (含水率、強熱減量)

COD<sub>sed</sub> (mg/g)



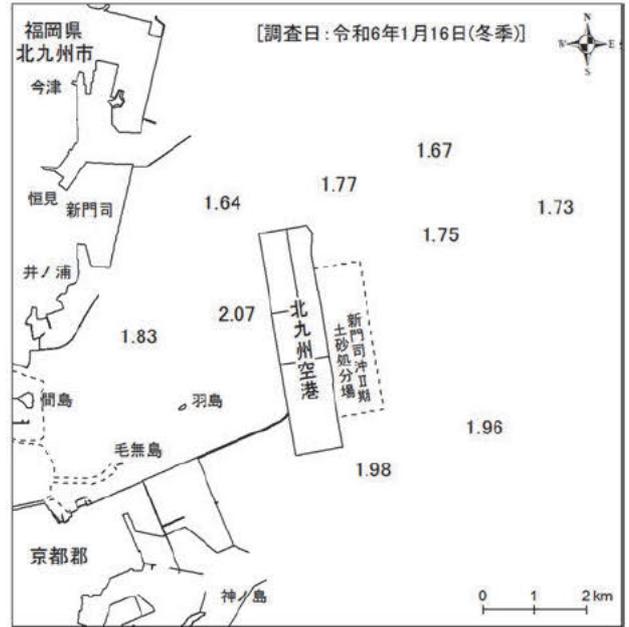
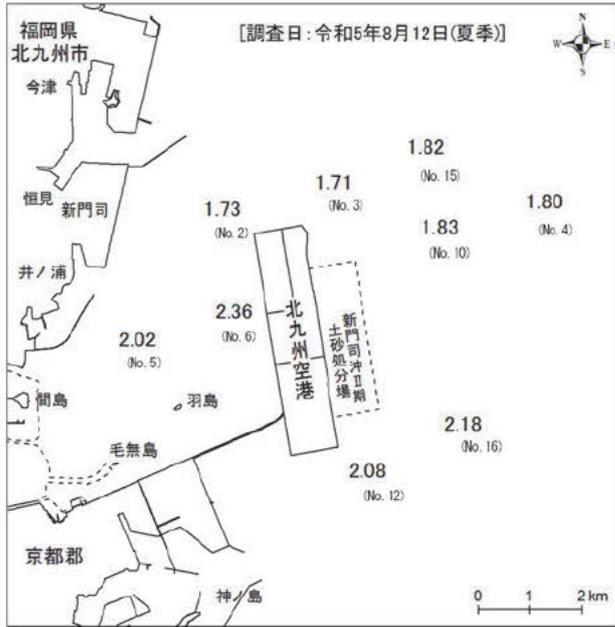
T-S (mg/g)



注) 図中値の   は水産用水基準に適合していないことを示す。

図 2.2.16 (2) 底質の水平分布 (COD<sub>sed</sub>、T-S)

T-N(mg/g)



T-P(mg/g)

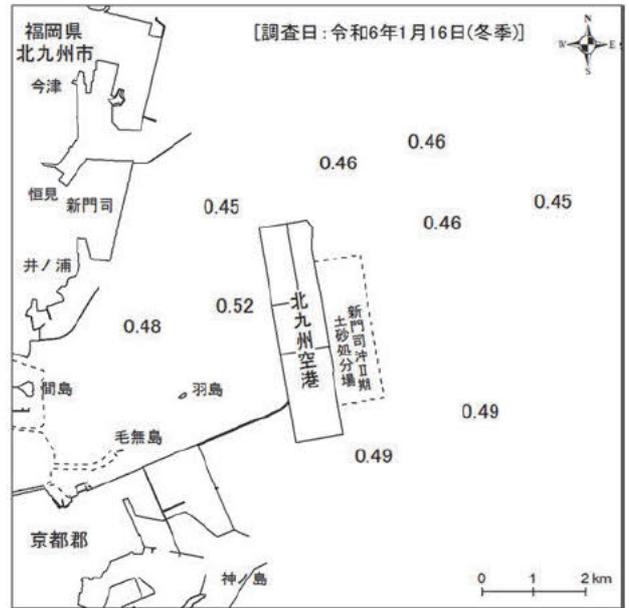
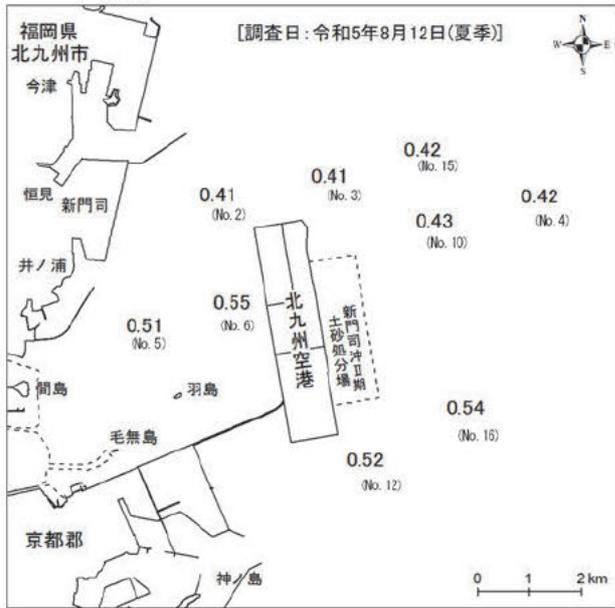


図 2.2.16 (3) 底質の水平分布 (T-N、T-P)

## (2) 評価

### 1) 監視基準の適合状況

底質の環境監視目標として水産用水基準が掲げられていることより、水産用水基準との対比結果を表 2.2.6 に示す。

化学的酸素要求量 (COD<sub>sed</sub>) は、2 季とも全検体が水産用水基準を満足する結果であった。硫化物 (T-S) は、2 季とも全検体が水産用水基準を超える値を示した。

表 2.2.6 底質の監視基準（水産用水基準）との対比

項目	基準値	時期 層	夏季 令和5年8月12日		冬季 令和6年1月16日		二季 (令和5年度)	
			m / n	不適合率 (%)	m / n	不適合率 (%)	m / n	不適合率 (%)
化学的酸素要求量(COD <sub>sed</sub> )	20mg/g以上	底層	0 / 9	0.0	0 / 9	0.0	0 / 18	0.0
硫化物(T-S)	0.2mg/g以下	底層	9 / 9	100.0	9 / 9	100.0	18 / 18	100.0

注) mは基準に適合しない検体数。nは総検体数。

■ 不適合率50%以上を示す。

### 2) 経年変化

令和元年度から令和5年度までの全調査点平均の経年変化を図 2.2.17 に示す。

令和5年度の底質は、各項目とも過年度と同程度の値で推移した。

#### ① 含水率

含水率は、季節的な変化がほとんどなく、令和2年度の夏季にやや低い値であった。今年度の結果は、過年度の結果とほぼ同程度の値で推移していた。

#### ② 強熱減量

強熱減量は、季節的な変化がほとんどなく、令和2年度の夏季にやや高い値であった。今年度の結果は、過年度の結果とほぼ同程度の値で推移していた。

#### ③ 化学的酸素要求量 (COD<sub>sed</sub>)

化学的酸素要求量は、季節的な変化がほとんどなく、令和元年度及び令和2年度は過年度よりやや高い値で水産用水基準 (20mg/g 以下) 前後の値となっていたが、令和3年度以降は 10mg/mg 前後の値で推移していた。今年度は昨年度よりやや高く、令和2年度と令和3年度の間値を示していた。

#### ④ 硫化物 (T-S)

硫化物は、季節的な変化はほとんどなく、今年度の結果は、過年度の結果とほぼ同程度の範囲で推移していた。なお、いずれの調査年度も水産用水基準 (0.2mg/g 以下) を上回っていた。

⑤ 全窒素 (T-N)

全窒素は、季節的な変化がほとんどなく、ほぼ一様な値で推移し、今年度の結果は過年度の結果とほぼ同程度の値で推移していた。

⑥ 全磷 (T-P)

全磷は、季節的な変化がほとんどなく、ほぼ一様な値で推移し、今年度の結果は過年度の結果とほぼ同程度の値で推移していた。

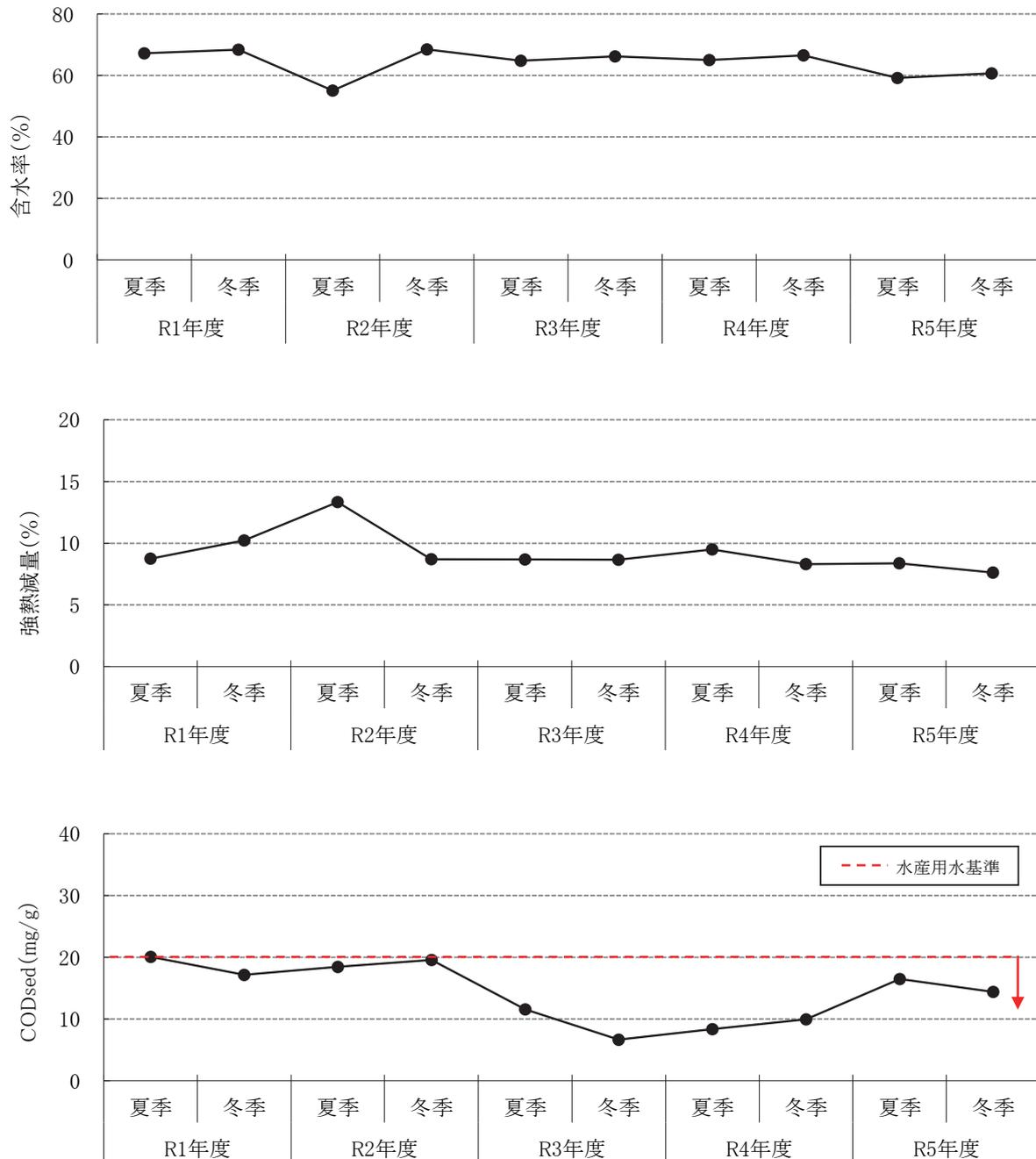


図 2.2.17 (1) 全調査点平均の経年変化 (含水率、強熱減量、CODsed)

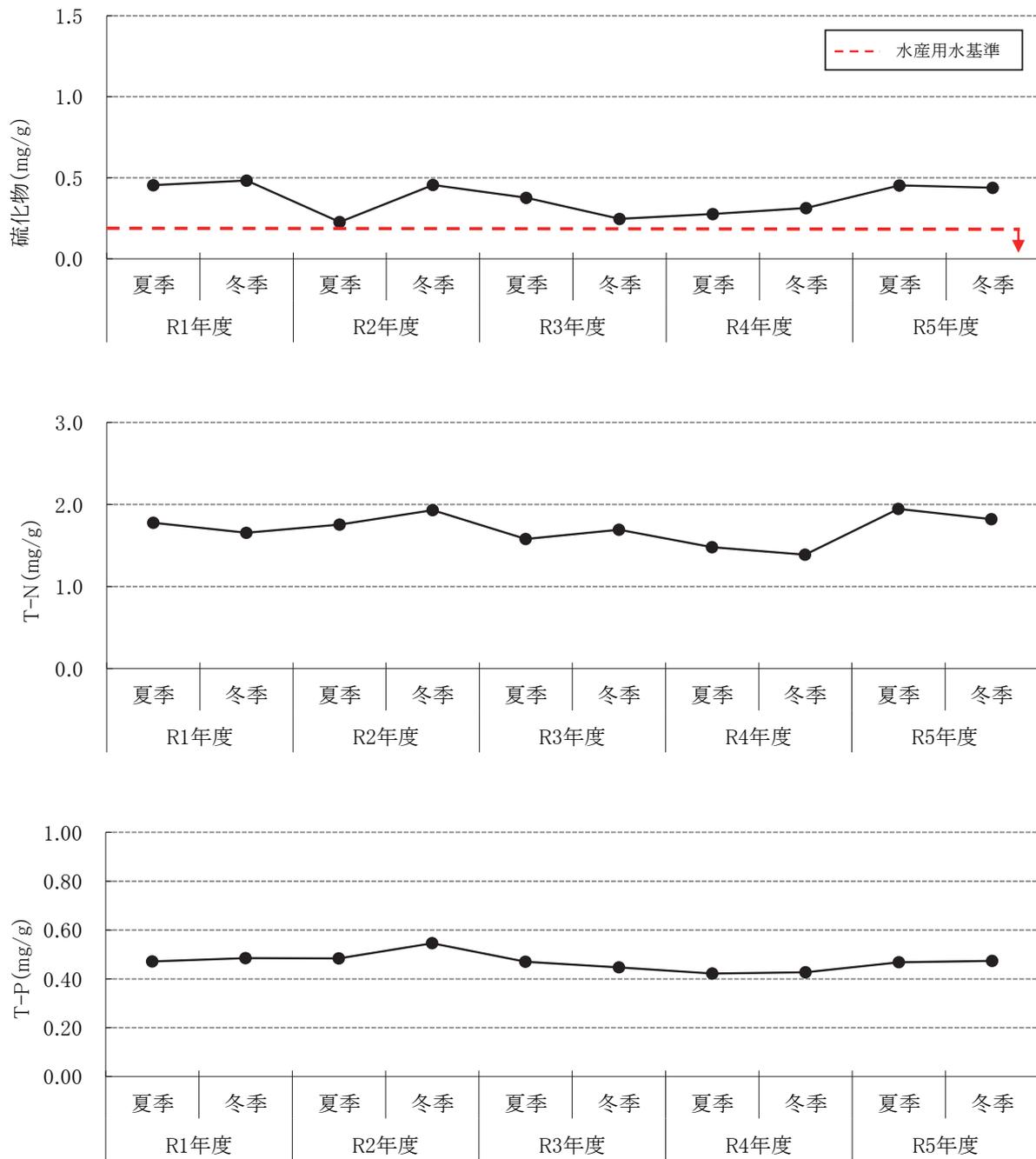
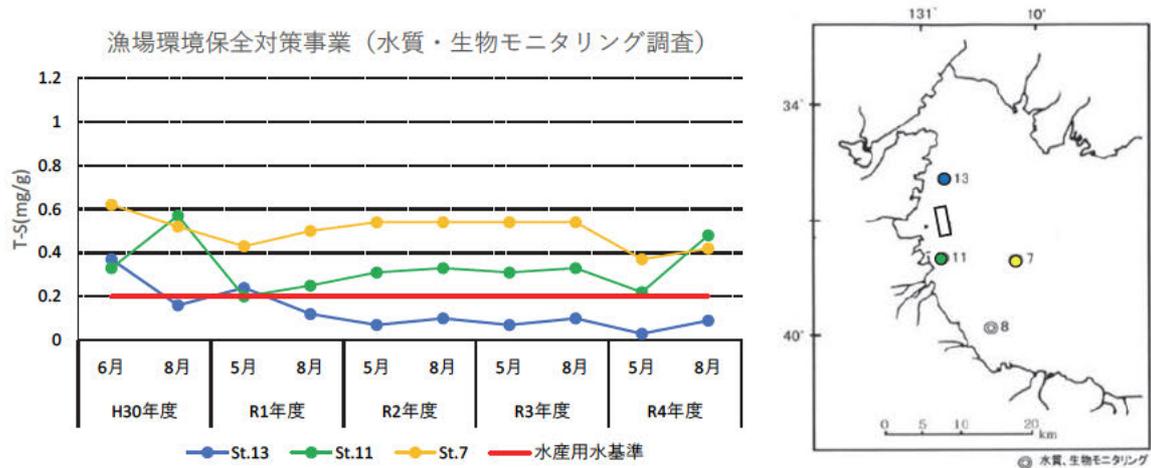


図 2.2.17 (2) 全調査点平均の経年変化 (T-S、T-N、T-P)

### 3) 底質調査結果のまとめ

令和5年度の底質は、各項目とも過年度と同程度の値で推移していた。

水産用水基準と比較すると、化学的酸素要求量 (COD<sub>sed</sub>) は、夏季、冬季とも全検体が水産用水基準を満足する結果であったが、硫化物 (T-S) は夏季、冬季とも全地点で基準より高くなっていた。T-S の基準値より高い値は、周辺海域で実施されている漁場環境保全対策事業 (福岡県水産海洋技術センター「水質・生物モニタリング調査」) でもみられており、周防灘周辺の底質の傾向と考えられた。



出典：「福岡県水産海洋技術センター事業報告」(福岡県水産海洋技術センター) より作成

図 2.2.18 漁場環境保全対策事業 (水質・生物モニタリング調査)